

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガクアカダヰン オカガクエン 学校法人 桜花学園									
フリガナ大学の名称	オカガクエンガク 桜花学園大学 (Ohka Gakuen University)									
大学本部の位置	愛知県豊明市栄町武侍48									
大学の目的	桜花学園大学は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおおそなえた優れた人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	国際学部 国際学科は「地域・国際社会に関する幅広い知識と語学力を生かしたコミュニケーション能力」および「多岐にわたるグローバルな問題を解決するための論理的・創造的な思考力と主体的・実践的な対応能力」を持った人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	国際学部 [Faculty of Global Studies]	4	50	年次人	210	学士 (国際学)	年月第年次	愛知県豊明市栄町武侍48		
	国際学科 [Department of Global Studies]			3年次			5			令和6年4月第1年次
	計			3年次			5			令和8年4月第3年次
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	○学芸学部（廃止） 英語学科 (△50) (3年次編入学定員) (△5) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	国際学部国際学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	国際学部国際学科	8人 (8)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	58人 (29)	
		計	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	- (-)	
	既設	保育学部保育学科	10 (10)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	18 (18)	1 (1)	73 (73)	
		保育学部国際教養こども学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	54 (54)	
計		16 (16)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	28 (28)	2 (2)	- (-)		
合計		24 (24)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	38 (38)	2 (2)	- (-)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		14 (14)	5 (5)	19 (19)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	3 (3)	4 (4)					
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
	計		16 (16)	8 (8)	24 (24)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋短期大学 (必要面積8,000㎡以上) と共用				
	校舎敷地	0㎡	39,310.27㎡	0㎡	39,310.27㎡					
	運動場用地	0㎡	16,709.88㎡	0㎡	16,709.88㎡					
	小 計	0㎡	56,020.15㎡	0㎡	56,020.15㎡					
	そ の 他	0㎡	19,692.94㎡	0㎡	19,692.94㎡					
	合 計	0㎡	75,713.09㎡	0㎡	75,713.09㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋短期大学 (必要面積5,650㎡以上) と共用				
		5,159.98㎡ (5,159.98㎡)	14,302.97㎡ (14,302.97㎡)	3,406.96㎡ (3,406.96㎡)	22,869.91㎡ (22,869.91㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	54室	73室	4室	3室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		国際学部国際学科		11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	国際学部国際学科	243,300 [28,150] (238,500 [27,950])	269 [33] (269 [33])	12 [12] (12 [12])	8,600 (8,450)	0 (0)	0 (0)			
	計	243,300 [28,150] (238,500 [27,950])	269 [33] (269 [33])	12 [12] (12 [12])	8,600 (8,450)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		2,194.52㎡	320		225,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		2237.6㎡	テニスコート		ゴルフ練習場					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	—	—	
		共同研究費等		3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	—	—	
		図書購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	500千円	—	—	
	設備購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	500千円	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,411千円	1,176千円	1,176千円	1,176千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								

既設 大学 等の 状況	大 学 の 名 称	桜花学園大学							愛知県豊明市栄町 武待48	令和6年度より学生募集停止		
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度			所 在 地	
	保育学部	年	人	年次 人	人		倍					
	保育学科	4	130	3年次 2	524	学士 (保育学)	1.00	平成14年度				
	国際教養こども学科	4	45	3年次 3	186	学士 (保育学)	0.66	平成30年度				
	保育学部 計	—	175	3年次 5	710		0.91					
	学芸学部 英語学科	4	—	3年次 —	—	学士 (英語)	—	平成21年度				
	大 学 の 名 称	桜花学園大学大学院										
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度			所 在 地	
	人間文化研究科	年	人	年次 人	人		倍					
人間科学専攻	2	5	—	10	修士(人間関係学専攻)	1.00	平成14年度	愛知県豊明市栄町 武待48				
地域文化専攻	2	5	—	10	修士(地域文化学専攻)	0.10	平成14年度					
大 学 の 名 称	名古屋短期大学											
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地				
保育科	2	240	—	480	短期大学士(保育学)	0.74	昭和30年度					
英語コミュニケーション学科	2	80	—	160	短期大学士(英語)	0.31	昭和51年度	愛知県豊明市栄町 武待48				
現代教養学科	2	80	—	185	短期大学士(現代教養)	0.36	昭和57年度					
附属施設の概要	該当なし								令和5年度入学定員減(80人)			

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る教を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校に於ける学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人桜花学園 学部等の設置に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
桜花学園大学				桜花学園大学					
保育学部				保育学部					
保育学科	130	3年次	2	524	保育学科	130	3年次	2	524
国際教養こども学科	45	3年次	3	186	国際教養こども学科	45	3年次	3	186
学芸学部				学芸学部					
英語学科	50	3年次	5	210		0	0	0	令和6年4月学生募集停止 3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止
計				225	3年次	10	920		
桜花学園大学大学院				桜花学園大学大学院					
人間文化研究科				人間文化研究科					
人間科学専攻 (M)	5	—	10	人間科学専攻 (M)	5	—	10		
地域文化専攻 (M)	5	—	10	地域文化専攻 (M)	5	—	10		
計				10			20		
名古屋短期大学				名古屋短期大学					
保育科				保育科					
英語コミュニケーション学科	80	—	160	英語コミュニケーション学科	80	—	160		
現代教養学科	80	—	160	現代教養学科	80	—	160		
計				400			800		
名古屋短期大学専攻科				名古屋短期大学専攻科					
保育専攻				保育専攻					
英語専攻	7	—	14	英語専攻	7	—	14		
計				27			54		

教育課程等の概要															
(国際学部国際学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目 (桜花学)	現代社会と女性	1前		2		○									兼1
	女性とジェンダー	1前		2		○									兼1
	女性と家庭教育	1前		2		○									兼1
	芸術の世界	1前		2		○									兼3
	文学の世界	1前		2		○									兼1
	心の探求	1前		2		○									兼1
	生き方の探求	1前		2		○									兼1
	生活と経済	1後		2		○									兼1
	地域社会	1後		2		○									兼1
	人間と歴史	1後		2		○									兼1
	異文化理解	1後		2		○									兼1
	日本の文化	1後		2		○			1						兼1
	国際関係論	1後		2		○									兼1
	グローバル社会と宗教	1後		2		○			1						兼1
	環境の科学	2前		2		○									兼1
食と生命の科学	2前		2		○									兼2	
生き物の社会	2前		2		○									兼1	
共通教育科目	スポーツ健康論	1後		2		○									兼1
	スポーツ I	2後		1				○							兼2
	スポーツ II	2後		1				○							兼2
	統計学	2後		2		○									兼1
	社会調査法	2後		2		○									兼1
	情報社会論	2後		2		○									兼1
	コンピュータ I	1前		1			○								兼1
	コンピュータ II	1後		1			○								兼1
	NGO・NPO論	3前		2		○									兼1
	現代社会と企業	3前		2		○									兼1
	地域協力演習	3前		2				○		1					兼1
	インターンシップ (国内) A	2・3・4前・後		1				○		1					兼1
	インターンシップ (国内) B	2・3・4前・後		2				○		1					兼1
	インターンシップ (海外) A	1・2・3・4前・後		1				○		1					兼1
	インターンシップ (海外) B	1後・2・3・4前・後		2				○		1					兼1
	インターンシップ (海外) C	1後・2・3・4前・後		3				○		1					兼1
	インターンシップ (海外) D	1後・2・3・4前・後		4				○		1					兼1
	ボランティア (国内)	1後・2・3・4前・後		1				○		1					兼1
	ボランティア (海外)	1後・2・3・4前・後		2				○		1					兼1
	海外英語資格実習	2・3・4前・後		2				○		1					兼1
	ポルトガル語と文化 I	1前		1			○								兼1
	ポルトガル語と文化 II	1後		1			○								兼1
スペイン語と文化 I	1前		1			○								兼1	
スペイン語と文化 II	1後		1			○								兼1	
フランス語と文化 I	1前		1			○								兼1	
フランス語と文化 II	1後		1			○								兼1	
中国語と文化 I	1前		1			○			1					兼1	
中国語と文化 II	1後		1			○			1					兼1	
中国語と文化 III	2前		1			○			1					兼1	

国際・情報専攻	中国語検定対策	2前	2		○		1							
	中国語リスニング&スピーキング	2後	2		○		1							
	中国語リーディング&ライティング	3前	2		○		1							
	日中交流史	3後	2		○		1							
	ビジネス環境とマーケティング	2後	2		○							兼1		
	学校文化と英語学習	2前	2		○		1							
	Advanced Writing I	2前	2			○						兼1		
	Advanced Writing II	2後	2			○						兼1		
	Business English	2前	2		○		1							
	Communicative English III	3前	1			○		1						
	Communicative English IV	3後	1			○		1						
	英語翻訳・通訳	3前	2			○		1				兼1	オムニバス	
	Speech & Presentation	3後	1			○						兼1		
	British Studies	3前	2		○				1					
	American Studies	3前	2		○			1						
	Theory of English Structure	3前	2		○							兼1		
	American Literature	3後	2		○			1						
	British Literature	3後	2		○				1					
	International Relations	3後	2		○			1						
	Study Abroad Preparation A	2前	1			○		1						
	Study Abroad Preparation B	2後	1			○		1						
	日本語教育専攻	多文化社会論	1前	2		○							兼1	
		日本語概論	1後	2		○							兼1	
		日本語教育概論Ⅰ	2前	2		○							兼1	
		日本語教育概論Ⅱ	2後	2		○							兼1	
		日英語比較Ⅰ	2前	2		○							兼1	
		日英語比較Ⅱ	2後	2		○							兼1	
		社会と言語	3前	2		○							兼1	
		日本語教育法Ⅰ	3前	2		○							兼1	
		日本語教育法Ⅱ	3後	2		○							兼1	
		言語学	3前	2		○							兼1	
		応用言語学	3後	2		○							兼1	
		日本語教育演習Ⅰ	4前	2			○						兼1	
		日本語教育演習Ⅱ	4後	2			○						兼1	
学校教育インターンシップ		2・3・4 前・後	2				○	1						
国内日本語教育インターンシップ		4前・後	2				○	1						
海外日本語教育インターンシップA		4前・後	2				○	1						
海外日本語教育インターンシップB		4前・後	4				○	1						
日本語教育ボランティアA	2・3・4 前・後	2				○	1							
日本語教育ボランティアB	2・3・4 前・後	4				○	1							
韓国専攻	韓国語表現文法	1後	2			○						兼1		
	韓国語リスニング&スピーキング	2前	2			○		1				兼1		
	韓国語リーディング&ライティング	2後	2			○		1				兼1		
	韓国語コミュニケーション	2前	2			○		1						
	韓国語プレゼンテーション	2後	2			○		1						
	韓国語映像翻訳	3前	2			○						兼1		
	ビジネス韓国語	3後	2			○						兼1		
	韓国事情	1前	2		○							兼1		
	韓国サブカルチャー	1後	2		○							兼1		
	韓国現代文学	2前	2		○							兼1		
	日韓対照言語学	2後	2		○			1						
	韓国の歴史	3前	2		○							兼1		
	韓国伝統文化と思想	3後	2		○							兼1		
	日韓文化比較	2前	2		○							兼1		
	韓国自由研究	2後	2				○	1						
	韓国インターンシップ	2・3・4 前・後	2				○					兼1		
	韓国留学準備講座A	2前	2			○		1						
	韓国留学準備講座B	2後	2			○		1						
	検定韓国語初級A	1前	1			○						兼1		
	検定韓国語中級A	1前	1			○						兼1		
検定韓国語上級A	1前	1			○						兼1			
検定韓国語初級B	1後	1			○						兼1			
検定韓国語中級B	1後	1			○						兼1			
検定韓国語上級B	1後	1			○						兼1			
観光学概論	1後	2		○			1							

観光専攻	観光と文化	2後		2		○			1										
	観光ホスピタリティ	2前		2		○			1										
	観光政策論	3後		2		○												兼1	
	観光インターンシップ	2・3・4 前・後		2				○	1										
	観光と地理	1前		2		○			1										
	エアライン講座	2前		2			○											兼1	
	旅行産業論	2後		2		○			1										
	宿泊産業論	3前		2		○			1										
	交通産業論	3前		2		○													兼1
	観光マーケティング	3後		2		○			1										
	観光とソーシャルメディア	3後		2		○													兼1
	祭と文化	2前		2		○			1										
	観光まちづくり論	3前		2		○			1										
	地域ブランディング論	3後		2		○			1										
	観光と社会	2後		2		○			1										
	地域フィールドワーク	2前		2				○	1										
小計 (87科目)		—	0	165	0	—	—	—	41	2	0	0	0	0	0	0	47	—	
ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	3前	1				○		8	2									
	専門ゼミナールⅡ	3後	1				○		8	2									
	専門ゼミナールⅢ	4前	1				○		8	2									
	専門ゼミナールⅣ	4後	1				○		8	2									
	卒業研究	4後	4				○		8	2									
小計 (5科目)		—	8	0	0	—	—	—	40	10	0	0	0	0	0	0	0	—	
自由科目	教職入門	1後			2	○			1										
	教育原理	1後			2	○												兼1	
	学習心理学	1後			2	○												兼1	
	道徳教育の指導法	2前			2	○												兼1	
	生徒・進路指導論	2後			2	○												兼1	
	特別支援基礎論	3前			1	○												兼1	
	教育方法・技術論	3前			2	○												兼1	
	教育相談	3前			2	○												兼1	
	教育行政・制度論	3後			2	○												兼1	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2	○												兼1	
	教育課程論	4後			2	○												兼1	
	英語科教育法Ⅰ	2前			2		○		1										
	英語科教育法Ⅱ	2後			2		○		1										
	英語科教育法Ⅲ	3前			2		○			1									
	英語科教育法Ⅳ	3後			2		○			1									
	教職実践演習Ⅰ (中・高)	4前			1		○		1										
教職実践演習Ⅱ (中・高)	4後			1		○			1										
教育実習指導	4前			1		○		1											
教育実習Ⅰ	4前			4			○	1											
教育実習Ⅱ	4前			2			○	1											
小計 (20科目)		—	0	0	38	—	—	—	7	3	0	0	0	0	0	0	10	—	
合計 (212科目)			—	22	325	38	—	—	—	137	33	0	0	0	0	0	121	—	
学位又は 称号	学士 (国際学)		学位又は学科の分野					文学関係											
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
必修科目22単位、専門教育科目 (国際学基礎) から (必修科目を含め) 40単位以上、専門教育科目のうち、国際・情報専攻、日本語教育専攻、韓国専攻、観光専攻のいずれかより主専攻 (メジャー専攻)、副専攻 (マイナー専攻) を選択し、主専攻 (メジャー専攻) から30単位以上、副専攻 (マイナー専攻) から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 48単位 (年間))										1学年の学期区分					2学期				
										1学期の授業期間					15週				
										1時限の授業時間					90分				

教育課程等の概要															
(学芸学部英語学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目 (桜花学)	現代社会と女性	1前		2		○								兼1	
	女性とジェンダー	1前		2		○								兼1	
	女性と家庭教育	1前		2		○								兼1	
	芸術の世界	1前		2		○								兼3	
	文学の世界	1前		2		○								兼1	
	心の探求	1前		2		○								兼1	
	生き方の探求	1前		2		○								兼1	
	生活と経済	1後		2		○								兼1	
	地域社会	1後		2		○								兼1	
	人間と歴史	1後		2		○								兼1	
	異文化理解	1後		2		○								兼1	
	日本の文化	1後		2		○			1						
	国際関係論	1後		2		○								兼1	
	グローバル社会と宗教	1後		2		○			1						
環境の科学	1前		2		○								兼1		
食と生命の科学	1前		2		○								兼2		
生き物の社会	1前		2		○								兼1		
共通教育科目	スポーツ健康論	1後		2		○								兼1	
	スポーツ I	2後		1				○						兼2	
	スポーツ II	2後		1				○						兼2	
	統計学	2後		2		○								兼1	
	社会調査法	2後		2		○								兼1	
	情報社会論	2後		2		○								兼1	
	コンピュータ I	1前		1			○							兼1	
	コンピュータ II	1後		1			○							兼1	
	コンピュータ III	2前		1				○						兼1	
	コンピュータ IV	2後		1					○					兼1	
	NGO・NPO論	3前		2		○								兼1	
	現代社会と企業	3前		2		○								兼1	
	地域協力演習	3前		2				○		1					
	インターンシップ(国内) A	2・3・4前・後		1				○		1					
	インターンシップ(国内) B	2・3・4前・後		2				○		1					
	インターンシップ(海外) A	1・2・3・4前・後		1				○		1					
	インターンシップ(海外) B	1後・2・3・4前・後		2				○		1					
	インターンシップ(海外) C	1後・2・3・4前・後		3				○		1					
	インターンシップ(海外) D	1後・2・3・4前・後		4				○		1					
	基礎科目	ボランティア(国内)	1後・2・3・4前・後		1				○		1				
		ボランティア(海外)	1後・2・3・4前・後		2				○		1				
		海外英語資格実習	2・3・4前・後		2				○		1				
		ポルトガル語と文化 I	1前		1			○							兼1
ポルトガル語と文化 II		1後		1			○							兼1	
スペイン語と文化 I		1前		1			○							兼1	
スペイン語と文化 II		1後		1			○							兼1	
フランス語と文化 I		1前		1			○							兼1	
フランス語と文化 II		1後		1			○							兼1	
中国語と文化 I		1前		1			○			1					
中国語と文化 II	1後		1			○			1						

	中国語と文化Ⅲ	2前	1			○		1											
	中国語と文化Ⅳ	2後	1			○		1											
	韓国語と文化Ⅰ	1前	1			○												兼2	
	韓国語と文化Ⅱ	1後	1			○												兼2	
	韓国語と文化Ⅲ	2前	1			○												兼1	
	韓国語と文化Ⅳ	2後	1			○												兼1	
	日本語表現Ⅰ	1前	1			○												兼2	
	日本語表現Ⅱ	1後	1			○												兼2	
	日本語表現Ⅲ	2前	1			○												兼2	
	日本語表現Ⅳ	2後	1			○												兼2	
	日本国憲法	2後	2			○												兼1	
	海外研修A	2・3・4 前・後	2					○		2	1								
	海外研修B	2・3・4 前・後	4					○		2	1								
	基礎演習Ⅰ	1前	1			○				1	1								
	基礎演習Ⅱ	1後	1			○				1	1								
	エクステンション科目	1・2・3・ 4前・後	6																
	小計 (62科目)	—	6	100	0	—	—	—	22	4	0	0	0	0	53	—			
英語ベーシック (スキル)	英語ベーシックⅠ	1前	1			○			2										
	英語ベーシックⅡ	1後	1			○			2										
	Listening and SpeakingⅠ	1前	2			○			2									兼1	
	Listening and SpeakingⅡ	1後	2			○			2									兼1	
	Listening and SpeakingⅢ	2前	2			○			2									兼1	
	Listening and SpeakingⅣ	2後	2			○			2									兼1	
	Communicative EnglishⅠ	3前	1			○			1									兼2	
	Communicative EnglishⅡ	3後	1			○			1									兼2	
	Reading and WritingⅠ	1前	3			○				1								兼2	
	Reading and WritingⅡ	1後	3			○				1								兼2	
	Reading and WritingⅢ	2前	3			○			1									兼2	
	Reading and WritingⅣ	2後	3			○			1									兼2	
	Academic WritingⅠ	3前	2			○												兼3	
	Academic WritingⅡ	3後	2			○												兼3	
	English PresentationⅠ	1前	1			○			1	1								兼1	
	English PresentationⅡ	1後	1			○			1	1								兼1	
	English PresentationⅢ	2前	1			○			1	1								兼1	
	English PresentationⅣ	2後	1			○			1	1								兼1	
	English PhoneticsⅠ	2前	2			○				1								兼1	
	English PhoneticsⅡ	2後	2			○				1								兼1	
	英語基礎文法Ⅰ	1前	1			○												兼1	
	英語基礎文法Ⅱ	1後	1			○												兼1	
	英語資格講座ⅠA	1・2・3・ 4前	1			○				1									兼3
	英語資格講座ⅠB	1・2・3・ 4前	1			○				1									兼3
英語資格講座ⅠC	1・2・3・ 4前	1			○				1									兼3	
英語資格講座ⅠD	1・2・3・ 4前	1			○				1									兼3	
英語資格講座ⅡA	1・2・3・ 4後	1			○				1									兼3	
英語資格講座ⅡB	1・2・3・ 4後	1			○				1									兼3	
英語資格講座ⅡC	1・2・3・ 4後	1			○				1									兼3	
英語資格講座ⅡD	1・2・3・ 4後	1			○				1									兼3	
Overseas StudiesⅠ	1後	4					○	4	1										
Overseas StudiesⅡ	2・3・4 前・後	4					○		1										
Study Abroad Preparation A	2・3・4 前・後	1				○												兼1	
Study Abroad Preparation B	2・3・4 前・後	1				○												兼1	
日本研究	2前	2			○				1									兼1	
異文化研究	2後	2			○				1										
Asian Studies	2後	2			○			1											
Oceanian Studies	3前	2			○													兼1	
American Studies	2前	2			○			1											
British Studies	3前	2			○				1										
韓国研究	3後	2			○			1											
イギリス文学入門	3前	2			○				1										

専門教育科目	三コース共通科目	アメリカ文学入門	3後	2		○			1										兼1	
		Speech & Presentation I	3・4前	1															兼1	
		Speech & Presentation II	3・4後	1			○												兼1	
		韓国語コミュニケーション	3前	1			○			1										
		企業研究 I	3前	2			○			1										
		企業研究 II	3後	2			○			1										
		International Relations	3・4前	2			○			1										
		グローバルエコノミー	3・4前	2			○												兼1	
		グローバルビジネス	3・4後	2			○												兼1	
		Management	3・4後	2			○												兼1	
		Marketing	3・4前	2			○												兼1	
		フィールドワーク	2・3・4前・後	2						○			1							
		中国語検定対策A	1・2・3・4前	1					○				1							
		中国語検定対策B	1・2・3・4後	1					○				1							
		韓国語検定対策A	1・2・3・4前	1					○				1							
		韓国語検定対策B	1・2・3・4後	1					○				1							
		韓国留学	1後・2・3・4前・後	3						○			1							
		韓国インターンシップA	2・3・4前・後	1						○			1							
		韓国インターンシップB	2・3・4前・後	2						○			1							
英語コース		Media English	3・4前	2			○												兼1	
		Business English	3・4後	2			○												兼1	
		Interpretation	3・4後	2			○												兼1	
		Translation	3・4前	2			○												兼1	
		Extensive Reading I	3・4前	2				○			1									
		Extensive Reading II	3・4後	2				○			1									
		American Literature	3・4前	2			○			1										
		British Literature	3・4後	2			○				1									
		English Linguistics	2前	2			○												兼1	
		Theory of English Structure	4後	2			○												兼1	
	Sociolinguistics	4後	2			○					1									
教育コース		教職入門	1後	2			○			1										
		英語学習と学習指導要領	2前	2			○			1										
		English for Children I	2・3・4前	2			○												兼1	
		English for Children II	2・3・4後	2			○												兼1	
		Applied Linguistics	3・4前	2			○				1									
		教育心理学	1後	2			○												兼1	
		教育相談	3前	2			○												兼1	
		教育課程論	4後	2			○												兼1	
		英語科教育法 I	3前	2			○			1										
	英語科教育法 II	3後	2			○			1											
	英語科教育法 III	4前	2			○					1									
	英語科教育法 IV	4後	2			○					1									
観光コース		Tourism English I	2前	2															兼1	
		Tourism English II	2後	2			○												兼1	
		Comparative Cultural Studies	3後	2			○												兼1	
		観光学概論	2前	2			○				1									
		観光ホスピタリティ	3前	2			○				1									
		旅行地誌 A (国内)	1前	2			○				1									
		旅行地誌 B (海外)	1後	2							1									
		観光マーケティング	2後	2			○				1									
		観光とサブカルチャー	3後	2			○				1									
	観光政策論	3後	2			○				1										
	観光とメディア	3・4前	2			○				1										
ゼミ・卒業研究		Basic Seminar III	2前	1			○			1	1									
		Basic Seminar IV	2後	1			○			1	1									
		Seminar I	3前	1			○			8	3									
		Seminar II	3後	1			○			8	3									
		Seminar III	4前	1			○			8	3									
		Seminar IV	4後	1			○			8	3									
		Graduation Research	4後	4			○			8	3									
	小計 (102科目)			50	131	0	-	-	-	95	46	0	0	0				78	-	

自由科目	教育原理	1後			2	○									兼1
	道徳教育の指導法	2前			2	○									兼1
	生徒・進路指導論	2後			2	○									兼1
	特別支援基礎論	3前			1	○									兼1
	教育方法・技術論	2後			2	○									兼1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2	○									兼1
	教育行政・制度論	3後			2	○									兼1
	教育実習指導	4前			1		○		1						
	教育実習Ⅰ	4前・後			4			○	1						
	教育実習Ⅱ	4前・後			2			○	1						
	教職実践演習Ⅰ（中・高）	4前			1		○		1						
	教職実践演習Ⅱ（中・高）	4後			1		○			1					
	学校教育インターンシップ	2後			2			○		1					
	日本語学概論	3前			2	○									兼1
	日英語比較Ⅰ	3前			2	○									兼1
	日英語比較Ⅱ	3後			2	○									兼1
	日本語教育学概論	3後			2	○									兼1
	日本語教育法Ⅰ	3前			2	○									兼1
	日本語教育法Ⅱ	3後			2	○									兼1
	日本語教育演習Ⅰ	3前			2		○								兼1
	日本語教育演習Ⅱ	3後			2		○								兼1
	日本語教育実習	4前・後			2			○							兼1
小計（22科目）		—	0	0	42	—	—	—	5	1	0	0	0	16	—
合計（186科目）		—	56	231	42	—	—	—	122	51	0	0	0	147	—
学位又は 称号	学士（英語）	学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法										授業期間等					
必修科目56単位を修得し、専門教育科目のうち、英語コース、教育コース、観光コースのいずれかを選択し、選択したコースから8科目16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））										1学年の学期区分			2学期		
										1学期の授業期間			15週		
										1時限の授業時間			90分		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代社会と女性	本授業では、現代の日本および世界の子ども、女性、環境の状況と保育についての現状を把握し、一見男女平等社会に見える現代社会で女性はどういう問題をかかえているのか、また、それらの問題が生じる社会・歴史的な背景を理解し、その問題解決の視点を保育に生かす方法について考察する。	
	女性とジェンダー	本授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）を切り口に、自己理解と他者理解を深める。さらに、ジェンダーに関わる身近な社会課題を自分事として捉え、それらとどう向き合うことができるかについて、考察を深める。資料(映像資料含む)を用いた講義を中心とし、グループワークなど参加型の授業も取り入れる。	
	女性と家庭教育	本授業では、家庭教育の作法ではなく、家庭での親子の関わり方の基本を学び、家庭教育のポイントを乳幼児から青年期までの発達という点から機能的に捉えて考えていく。グループごとにテキストを読みながら提示された課題を皆で考えて取り組んでいく。	
	芸術の世界	本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験する。幅広い知識、高い教養、豊かな人間性をそなえるべく、深い真理の探究ことを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。 (オムニバス方式全15回) (14 兼担 基村昌代/5回) 総合芸術について、ミュージカル・オペラを中心にその背景や伝える内容について学ぶ。 (15 兼担 田端智美/5回) 誰もが知るレオナルド・ダ・ヴィンチ、ピカソという人物とその作品について学ぶ。 (13 兼担 石山英明/5回) 楽曲解釈の多様性について、クラシック・タンゴ・ポピュラーのジャンルを中心に学ぶ。	オムニバス方式
	文学の世界	本授業では、文学の基礎知識を習得すること、小説や詩という文芸を学ぶことにより言語感覚を錬磨し作品鑑賞の力を習得することを通して芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握する。主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。	
	心の探求	本授業では、心理学の基礎的な考え方やとらえ方をさまざまな理論や概念、データを通して学び理解すること、「こころ」についてのとらえ方を学び自分自身の「こころ」や身の回りの「こころ」に関する現象について理解し言語化できるようになること、心理学の理論から他者や集団、社会自体を捉え説明することができるようになることを通じて、目には見えない「こころ」を心理学者がどのように可視化し人間を理解してきたかを学び、「こころ」とは何かを考え「心を持つ人間」として、他者と自分を見つめる力を養い心豊かな人間になる道を探る。	
	生き方の探求	本授業は、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である「哲学」に基づいて、「信念ある女性を育成する」ために、人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題の能動的学修を通じて、人間と人間の心の本質的な理解を獲得し、人間の生き方の諸問題を体系的に理解し、自己の生き方についての根本的な考察能力を能動的に修得することを通して自己の生き方を探求する。	
	生活と経済	本授業は、経済の基本的なしくみや概念について知ること、自分たちの生活が経済活動と密接に結びついていることを理解することを通して自分の日常生活が経済の一部でありわたしたちの行動が社会のあり方を決定しているのだという自覚をもつとともに、社会のあり方について興味を持ち考えるようになる。社会の土台を形成する経済に関する知見を得ることは、社会に寄与することができる「信念ある女性」となるための必須教養の一つである。授業は基本的に講義形式で行い、現代日本の経済が直面し国民生活に大きく影響している諸課題について説明する。また、調べたり、考えたり、意見をまとめ、それを発表していただくこともある。	

地域社会	<p>本授業では、現代社会の成り立ちや社会問題が問題化されるプロセスを知ること、自分自身が生きる地域社会についての理解を深めること、社会全体における問題の構造を見通せる力を育成・獲得することを目的に、人々が生まれ、育ち、学び、働き、自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスと、人々が出会う人間関係と地域の問題を考察する。また、「地域社会で生きていくための課題」を映像資料等により実践的に学ぶ。</p>	
人間と歴史	<p>本授業では、神話・昔話・童謡・絵本・詩・現代メディアなどに反映される歴史的背景を読み取り、日本史の各時代がどのようなものであったのかについて考察する。それを踏まえ、各時代の子供の生活や、海外文化の導入の歴史についても考える。</p>	
異文化理解	<p>本授業では、グローバル社会への理解を深めるという目標のもとに、異文化という観点からコミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、異なる文化背景を持った人にどのように伝え、交わるか、また、どのように受け入れ、理解するのかについて考えていく。さらに、多文化共生社会の中で、いかに円滑に共存できるかについて考察していく。Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れていく。</p>	
日本の文化	<p>これまで、日本或いは日本人について多くの研究があり、そして作者には日本人のほか、外国人も多い。日本或いは日本人論は、日本文化論でもあり、日本文化を理解するに日本或いは日本人を理解しなくてはならない。本授業は、これらの研究書の一部を取り上げ、学生と一緒に日本の文化について再認識し、議論を通して日本文化を再発見する。日本或いは日本人に関する論を読んで、自身の理解を整理した上、プレゼンテーションを通して自らの意見を発信できることと、グループディスカッションにおいてしっかり自身の意を主張し、また、これらの意見を課題としてのレポートに反映できることを目標とする。</p>	
国際関係論	<p>本授業は、様々な異なった価値観を学び、その中から自分の考え方、そして広義の意味では自分の生き方を考える機会となるように世の中の動きと今を生きている私たちを取り巻く国際・国内の社会情勢を同時進行的に学び社会に出てから通用する知識を身につけることを目標とする。日常生活で当たり前で正しい(と思われる)事でも、他の国、他の地域に行けば逆に悪い事(と思われる)ことがある。世界には様々な文化、様々な社会が存在する。全く相反する異なる価値観が存在したとしても私たちは共存していかなければいけない。そうした国際社会の現状とルールがどうなっているか、様々な事例から学修する。毎週最新のニュースを扱いながら、様々な今までの事例を考え、幅広い視野を身につける。</p>	
グローバル社会と宗教	<p>本授業は、世界5大宗教や神道の概略を理解し、説明できるようになること、日本における仏教(宗派ごと)、その他の宗教の概要を理解し、説明できるようになること、世界の歴史、地理、観光、文化、芸術、政治、経済、風習等について理解し、宗教との関連性を含め多様性への理解を深めること、自分の考えと違うものに対する理解と許容する心を育み、自らも成長することを目標とする。グローバル社会において、事の大小を問わず諸現象・事象に宗教が少なからずかかわっている。世界の歴史、地理、観光、文化、芸術、政治、経済、風習等について、宗教を横軸として考察し、知識を習得することにより、広い視野を持ち、異文化や共生に理解を示す優れた人材となることを目指す。</p>	
環境の科学	<p>本授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。プリントと視聴覚教材を使用した講義、小グループ内でのレポート発表、野外実習を行う。地球環境、生態系のしくみ、生物多様性について理解し、環境保全活動の実践方法を知ること目標とする。</p>	
食と生命の科学	<p>本授業では、食および生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深める。1回目は合同で講義を受け、その後2グループに分かれ、それぞれの教員から7回ずつ受講するオムニバス形式の授業形態とする。 (オムニバス方式全15回) (19、20 兼担 辻岡和代、木村達志/1回) (共同) 本授業についてオリエンテーションを行う。 (20 兼担 木村達志/7回) 生命科学に関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深めること、科学的根拠のもとに、健康管理の基本である体重管理の重要性を他者に伝える能力を養うことを目標とする。 (19 兼担 辻岡和代/7回) 食に関する情報の科学的根拠を授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってくださうことを目標とする。</p>	オムニバス方式

生き物の社会	本授業では、生物の適応戦略について理解すること、合理的意思決定について理解を深めること、授業で得た知識や解析方法を身近な問題に応用し、自分で合理的解決策を考えることができるようになる生物がいかに環境に適応して生きているか、生物どうしがどのように関わり合っているかを学ぶ。また生物の進化から合理的な意思決定について理解し、そこから身近な人間活動における合理的な振る舞いについても考える。	
スポーツ健康論	本授業では、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおねぞなえた優れた人材を育成することを基とし、より良く生きるために再考すべき課題を健康とスポーツというキーワードから発見・探求していく。生涯に渡って心身共に健康な生活を送ることができるための知識と態度の習得は、社会を構成する一員として、社会の発展に寄与することができることを考える。	
スポーツ I	ゴルフ、ボクササイズから選択。ゴルフは、生涯スポーツとして広く受け入れられている種目を授業内にだけにとどまらず、在学中または卒業後にも生かせる講義を行う。初心者を対象とした指導を行うように基礎的な部分を重視しながら進めていく。ボクササイズは、ボクシングの基礎的な技術の習得及び、体力/筋力の向上を目指す。ボクシングの基礎的な技術を習得するだけでなく、身体に対する意識を高め、ボクササイズによる身体コンディショニングの基礎を学習する。	
スポーツ II	テニス、バドミントンから選択。テニスは、安定したラリーの修得をめざし、さらにはダブルスを中心とした試合形式のゲームを楽しむことができる。ダブルスゲームを通してポジショニングやパートナーにコミュニケーションを学び、ルールやマネーを深める。バドミントンは、だれでも手軽に楽しむことができるのが魅力の一つである。ダブルスゲームのフォーメーションの理論と戦術、バドミントンの楽しさを体験する。バドミントンの理論と実践、またそれらを通して運動感覚を習得し、生涯にわたって年齢と体力に応じた豊かなスポーツライフを送るための基盤づくりをする。	
統計学	現代では多種多様な数値データが蓄積され、課題解決に活用されている。また、研究論文を読み解く、あるいは調査研究を行う際などにも統計学の知識を活用する場面もある。本授業では、数値データの処理や解釈に必要な統計の知識や理論を学び、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身に付けること、さらには「総合的な人間力」を養うことを目的とする。講義ではMicrosoft Excelを利用し、データ分析の演習課題も行う。	
社会調査法	本授業では、社会調査 (social research) の理論と技法について学ぶ。社会調査は「社会」のすがたを明らかにする手段である。明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査方法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスを科学的・客観的に処理する方法について詳説する。社会調査には、量的調査と質的調査という2つの調査タイプがある。社会のすがたを数量的に把握するには量的調査が適しており、個人や集団の多様性を洞察的に把握するには質的調査が適しているが、調査を実施する私たち自身もその社会の一員であることを忘れてはならない。「社会調査する」ことは、自分とは何か、自分と社会はどうつながっているのかについて考えるきっかけにもなる。	
情報社会論	本授業は、「社会人基礎力」を自ら育み、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念のある女性」としての基礎を培うための科目群に位置づけられている。急激に情報化が進む現代社会の中では情報を自ら取得してリアルタイムで変化していく環境に対応するために活用していくことが必要である。授業の中でコンピュータを利用して小テストを実施する。また、情報社会と情報について学んだ結果、自分たちが将来を含んで情報社会とどのように接したら良いかを検討し、プレゼンテーションする。身の回りの情報化を意識し、今後変化していく社会の中でも情報の適切な活用ができるようになる。	
コンピュータ I	本授業では、課題や目的に応じてパソコンやアプリケーションを適切に活用し、その解決に向けて情報を収集・分析する力を身につけることを目標とする。Windows操作、メールの送受信、文書作成 (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の基本操作を演習形式で学習する。これらを通してOffice ソフトを利用した情報の整理収集・分析・表現方法を習得すること、情報モラルと情報セキュリティを理解し、安全にPCを使用することができるようになることを目標とする。	

<p>コンピュータⅡ</p>	<p>本授業では、課題や目的に応じてパソコンやアプリケーションを適切に活用し、その解決に向けて情報を収集・分析する力や自己の見解を適切に発信・伝達できる力を身につける。また個人情報の扱い、著作権、ネットワーク上のルール・マナー等の情報モラルや情報セキュリティの理解を深め、正しく情報活用するために的確な判断ができる力を育成するとともに、Word, Excel, PowerPointの応用操作を演習形式で学習する。これらを通してOfficeソフトを利用した情報の整理収集・分析・表現方法を習得すること、今までに習得した知識や技術に基づき、独創的な作品を創作すること、情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任について理解し、情報モラルをもって、情報を収集・加工・整理し、分析・解釈することができるようになることを目標とする。</p>	
<p>NGO・NPO論</p>	<p>本授業では、開発援助の背景とともに、NGO・NPOの種類、役割、活動などの概要や、NGO・NPOによる国際協力の在り方を理解し、国際理解・異文化理解を深める。世界や国内の様々な事例を取り上げ、自ら解決すべき社会課題を明確にする事で、批判的・論理的思考力、課題探求力、コミュニケーション能力を育成する。また、学生のキャリアパスの選択肢の一つとして、NGO・NPOで働くとはどういうことか考えるとともに、もし自分がNGO・NPOの職員だったらどのような活動をするようになるのか、「具体的なイメージ」を構築する。また、参加型ワークショップを通して、NGO・NPOの設立を疑似体験する。</p>	
<p>現代社会と企業</p>	<p>私たちの社会は、企業の存在が不可欠である。そこで、本授業では現代社会における私たち個人と企業の関係について学び、社会人基礎力の養成を目指す。授業計画では4回程度のレポート課題を実施する。わたしたちが住んでいる地域には様々な種類の産業が存在し、それらが互いに投入産出構造などを通じて関連しあっていることを理解する。また、就職し「社会人」になるということは、「組織人」として行動することが求められることであるということを理解することができ、その上で、個人ではできないことをやりとげるためにつくられた「協働システム」としての組織のあり方や個人との関わり方について、自らの考えをもつことができるようになることを目標とする。</p>	
<p>地域協力演習</p>	<p>本授業においては、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会の我が国が今後発展するためには「地域の活性化」が重要なテーマとなっている。地域の歴史、文化、伝統、生活様式などを学びながら、大学生としてどのように地域と交流し、いかに地域に貢献できるかをフィールドワーク実習を通して学修する。地域の重要性を理解して社会との関連性を理解していること、有松の歴史、文化などを理解して有松の活性化に向けた提案を行うこと、自分の地元の歴史、文化、社会等について理解し、地域の課題解決に向けた発表を行うことを目標とする。</p>	
<p>インターンシップ（国内）A</p>	<p>本授業では、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおいて職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。基本実習期間は1週間または30時間以上とし、社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得すること、企業、組織の役割、公権力を実体験において学修すること、卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を修得することを目標とする。</p>	
<p>インターンシップ（国内）B</p>	<p>本授業では、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおいて職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。基本実習期間は2週間または60時間以上とし、社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得すること、企業、組織の役割、公権力を実体験において学修すること、卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を修得することを目標とする。</p>	

<p>インターンシップ (海外) A</p>	<p>本授業では、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用し、海外の一般企業、行政機関、学校、各種団体等の職場体験を通して海外の企業の仕組みや仕事の流れ、情報システムの活用や職場における人間関係などの理解を深め、将来の職業選択やキャリアプランに役立てる。基本実習期間は1週間または30時間以上とする。実習先機関は大学が斡旋する企業または団体か、学生が独自で開拓した企業または団体でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。</p>	
<p>インターンシップ (海外) B</p>	<p>本授業では、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用し、海外の一般企業、行政機関、学校、各種団体等の職場体験を通して海外の企業の仕組みや仕事の流れ、情報システムの活用や職場における人間関係などの理解を深め、将来の職業選択やキャリアプランに役立てる。基本実習期間は2週間または60時間以上とする。実習先機関は大学が斡旋する企業または団体か、学生が独自で開拓した企業または団体でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。</p>	
<p>インターンシップ (海外) C</p>	<p>本授業では、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用し、海外の一般企業、行政機関、学校、各種団体等の職場体験を通して海外の企業の仕組みや仕事の流れ、情報システムの活用や職場における人間関係などの理解を深め、将来の職業選択やキャリアプランに役立てる。基本実習期間は3週間または90時間以上とする。実習先機関は大学が斡旋する企業または団体か、学生が独自で開拓した企業または団体でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。</p>	
<p>インターンシップ (海外) D</p>	<p>本授業では、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用し、海外の一般企業、行政機関、学校、各種団体等の職場体験を通して海外の企業の仕組みや仕事の流れ、情報システムの活用や職場における人間関係などの理解を深め、将来の職業選択やキャリアプランに役立てる。基本実習期間は4週間または120時間以上とする。実習先機関は大学が斡旋する企業または団体か、学生が独自で開拓した企業または団体でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。</p>	
<p>ボランティア (国内)</p>	<p>本実習授業では、NPO/NGO、企業、政府機関、私立機関、観光機関等でボランティア活動に参加することにより、学生たちが成長し、経験し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。このことには、信念ある人間を育成し、社会の発展に貢献できる能力を身につけさせることを教育目標としている本学のディプロマポリシーが反映されている。子ども達、障害を持つ人、貧しい人、病める人、環境やコミュニティ全体を助ける等が実践例として考えられる。その他の活動も可能であり、担当者とともに話し合っ決定する。</p>	
<p>ボランティア (海外)</p>	<p>本実習授業では、国際的なNGO・企業・国際機関等でボランティア活動に参加することにより、学生自らが成長し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども・障がい者・貧しい人、病める人等の環境・コミュニティでボランティア活動を通して実習を行う。担当者話し合いを持って活動を決定する。1年時後期から4年次までの実習が可能であるが、4年次1月までに活動を完了することとする。子ども・障がい者等の環境・コミュニティでボランティアすることにより、貴重な海外経験を過ごし、自らの能力を高めることが目標である。こうした活動を通して、様々な分野でボランティアする精神を養う。</p>	
<p>海外英語資格実習</p>	<p>本授業は、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を主として教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。学校での語学指導について、高い教養と豊かな人間性を伴う理論や教授方法を効果的に組み合わせて、授業実践をすることができ、例えば、TESOL-Cなどの資格を海外で取得する場合に、現地実習の時間数や、授業時間数などが単位取得のための条件を満たしていれば、本授業への単位申請が可能になる。</p>	

ポルトガル語と文化Ⅰ	ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習する。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成し、ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及する。音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介し、講義形式と、グループディスカッションおよびプレゼンテーションを組み合わせた授業を行う。	
ポルトガル語と文化Ⅱ	「ポルトガル語と文化Ⅰ」を受け、ブラジル・ポルトガル語の基礎段階および応用段階を学習する。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及する。音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介し、講義形式と、グループディスカッションおよびプレゼンテーションを組み合わせた授業を行う。	
スペイン語と文化Ⅰ	初めてスペイン語を勉強する学生を対象とし、スペイン語の基礎とラテンアメリカとスペインの文化についても学ぶ。また、個人又はグループでの実践的なコミュニケーションの練習をとおして、習得した簡単な表現を使ってスペイン語でコミュニケーションをとることも学ぶ。修了時には、アルファベット、数詞を習得し簡単な単語を使った会話ができること、Ser, Estar動詞を使った質問文、解答文を作ることができること、学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができることを目標とする。	
スペイン語と文化Ⅱ	「スペイン語と文化Ⅰ」を受け、学生は、学んだ知識を使用して、個人またはグループでコミュニケーションをとることができるように、スペイン語の知識と技能を伸ばし、発展させる。同時に、ラテンアメリカとスペインの文化についても学ぶ。新しい単語を使って簡単な会話の練習をしながらスペイン語の知識を増やすこと、現在形動詞の規則動詞、不規則動詞の活用を学び、小文章を書き、読むこと、学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができることを目標とする。	
フランス語と文化Ⅰ	フランス語及びフランス語圏の文化について学ぶ。主に教科書を使って授業を進め、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用する。自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力を養う授業を目指す。簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになること、具体的には、実用フランス語技能検定5級合格程度のフランス語能力を身につけること、さらに、フランスに限らずヨーロッパの文化について興味・関心を深めることを目標とする。	
フランス語と文化Ⅱ	「フランス語と文化Ⅰ」を受け、主に教科書を使って授業を進め、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用する。自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力を養う授業を目指す。基本的小および応用的なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになること、具体的には、実用フランス語技能検定5級合格以上のフランス語能力を身につけることを目標です。具体的には、実用フランス語技能検定5級合格程度のフランス語能力を身につけること、さらに、フランスに限らずヨーロッパの文化について興味・関心を深めることを目標とする。	
中国語と文化Ⅰ	本授業は、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力の育成に合致するもので、現代中国語の入門講義である。まずは、中国語発音の基礎である「ピンイン」を学習し、繰り返し練習した後に簡単なあいさつ文から徐々に簡単な会話を勉強する。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付ける。	
中国語と文化Ⅱ	本授業は、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力の育成に合致する現代中国語の初級講義である。毎回、新しい単語を解説し、本文の会話を繰り返し練習する。必要に応じて文法事項の説明も行う。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付ける。この授業は前期に開講する中国語Ⅰを選択した上で履修する講義である。中国語で簡単な挨拶ができること、辞書を使えば簡単な文章が理解できるようになることを目標としている。	

中国語と文化Ⅲ	<p>本授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。中国語と文化Ⅰ、Ⅱで身につけた発音に関する基礎知識を踏まえて、基礎的な語彙、文法を適切に運用し、簡単な日常会話能力を習得していくことを目的とする。発音の練習を重視しながら、耳に入ってくる中国語の意味を正確に理解し、自らの言葉として発信する能力を身につけていく。基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語の文法を学ぶ。基礎的な語彙と初歩的な文法を繰り返し練習することによって、簡単な日常会話能力を身につけ、適切に使うことができることを目標としている。</p>	
中国語と文化Ⅳ	<p>本授業は1年次中国語を習得し、かつ2年次前期に「中国語と文化Ⅲ」を履修した学生を対象とする。発音に関する基礎知識を踏まえて、基礎的な語彙、文法を適切に運用し、日常会話能力を習得していくことを目的とする。発音の練習を重視しながら、耳に入ってくる中国語の意味を正確に理解し、自らの言葉として発信する能力を身につけていく。基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語の文法を学ぶ。語彙と文法を繰り返し練習し修得することによって、応用的な日常会話能力を身につけ、適切に使うことができる。</p>	
韓国語と文化Ⅰ	<p>他者と交流・協力し、学びあう力が求められる中、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高めるディプロマポリシーの一環として、韓国語と文化Ⅰでは韓国語の文字(ハングル)及び基礎文法を学びながら、簡単な日常会話を練習する。また、韓国の生きた文化に触れながら理解を深める。International Dayには、グループで取り組んだ文化学修内容を発表し、韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになることを目標とする。</p>	
韓国語と文化Ⅱ	<p>他者と交流・協力し、学びあう力が求められる中、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高めるディプロマポリシーの一環として、韓国語と文化Ⅱでは韓国語と文化Ⅰに引き続き韓国語の基礎文法を学びながら、簡単な日常会話及び自己紹介を練習する。授業は、テキストを中心に進め、ペアワークで会話の練習をする。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深める。韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付け、みんなの前で自己紹介ができるようになることを目標とする。</p>	
韓国語と文化Ⅲ	<p>本授業は、高い教養に資する知識・理解する力、課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能を身につけるための授業である。いろいろな文法項目や表現を学びながらテキストを中心に進め、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアワークで会話の練習をしながらスピーキングに重点を置く。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深める。韓国の文学作品を1冊以上読み、単元ごとに確認テストを行う。動詞・形容詞の活用をしっかりと覚え、対話形式の会話文に慣れ、韓国文化についての知識を増やし異文化に対する理解を深めることを目標とする。</p>	
韓国語と文化Ⅳ	<p>本授業は、高い教養に資する知識・理解する力、課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能を身につけるための授業である。いろいろな文法項目や表現を学びながらテキストを中心に進め、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアワークで会話の練習をしながらコミュニケーション能力に重点を置く。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深める。韓国の文学作品を1冊以上読み、単元ごとに確認テストを行う。文型や表現を使い分けながら、いろいろな場面でのやりとりができ、韓国文化についての知識を増やし異文化に対する理解を深めることを目標とする。</p>	
日本国憲法	<p>法の支配(法による統治)、それは自由社会を理想とする国家にとっての基本原則である。多数派による少数派の抑圧を防止する方便としての憲法存在、裁判所の違憲立法審査権の目的を理解するための講義である。世界普遍の自由社会のための法技術の理解、あるいは、英米文化圏の法的な発想が東洋文化圏でどのように継承されたかを体得することを本講義は目的としている。国民個人の「自由」と国の統治権の行使の結果実現される「正義」というものが相反する作用の関係にあることを理解できること、基本権あるいは人権思想が発達してきた歴史上の経緯を知り、三権分立の目的が理解できること、権利や自由には内在的な制約があり、国民はこれを濫用せずに公共の福祉に反しない形で行使しなければならないことの意味を理解できることを目標とする。</p>	

海外研修A	海外研修Aは、2週間以上の現地研修、かつ合計60時間以上の語学研修を含む内容を原則とする。英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。担当者と相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。語学能力の向上、滞在地における社会・生活・文化理解、研修の準備を自分で行い外国での実践による自律した学習者としての自覚を持つことを目標とする。	
海外研修B	海外研修Bは、4週間以上の現地研修、かつ合計120時間以上の語学研修を含む内容を原則とする。英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。担当者と相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。語学能力の向上、滞在地における社会、生活、文化理解、研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学習者としての自覚を持つことを目標とする。	
基礎演習 I	本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力といった「社会人基礎力」を育成する科目である。その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。また、自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができるようになること、社会人基礎力とは何かを理解することができるようになること、自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができるようになること、他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができるようになる能力を身につけるために必要な学修をすることができるようになること、を目標とする。	
基礎演習 II	本授業は、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力といった「社会人基礎力」を育成する科目である。その育成のため、前期に行った実践に、情報収集、情報提供や思考の表現、などを加えていく。自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができるようになること、社会人基礎力とは何かを引き続き理解し、後期はそのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができるようになること、批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができるようになること、を加えたものを本授業の目標とする。	
Grammar for Communication I	本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連している。知識として獲得した語彙や文法を実際に使うことができるように訓練し、文法知識を日常会話などの実践で使うことができる英語力を身につける。高校までで学んだ文法事項の復習を行いつつ、日本語を見て、または頭に浮かんだ日本語に対して、即座に対応する英語表現が口から出てくるように訓練（クイックレスポンス、シャドーイング、オーバーラッピング）などを行う。学んだ表現を活用してペアでの会話やスピーチができるようになる。	
Grammar for Communication II	本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連しており、Grammar for Communication I に続くコースである。知識として獲得した語彙や文法を実際に使うことができるように訓練し、文法知識を日常会話などの実践で使うことができる英語力を身につける。高校及びGrammar for Communication I までで学んだ文法事項の復習を行いつつ、日本語を見て、または頭に浮かんだ日本語に対して、即座に対応する英語表現が口から出てくるように訓練（クイックレスポンス、シャドーイング、オーバーラッピング）などを行う。学んだ表現を活用してペアでの会話やスピーチ、ディスカッションやディベートができるようになる。	
Speaking I	本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連している。この授業の目的は、学生が英語でやり取りするための総合的な能力を習得するために、さまざまな会話の方法とそれに伴う文法を学ぶことである。一般的な身のまわりの事柄について、流暢に正しい発音で話すことができるようになる。また、理解できないときや、うまく自分の意図が伝えることができない時等、コミュニケーション問題を解決する方略も身につける。受講生は教師やクラスメートと英語でやり取りすることが求められる。クラスのディスカッションに参加し、質問をし、コミュニケーションスキルの上昇に積極的に取り組むことが期待される。クラス内での練習を通して文法を理解し、さらに発音を改善する。また、オンライン語彙学習システムを使用して、毎週個別の語彙クイズを受ける。	

Speaking II	<p>本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連しており、Speaking I に続く授業である。この授業の目的は、英語でやり取りするための総合的な能力を習得するために、さまざまな会話の方法とそれに伴う文法を学ぶことである。より社会的な事柄について、流暢に正しい発音で話すことができるようになる。また、理解できないときや、うまく自分の意図が伝えることができない時等、コミュニケーション問題を解決する方略も身につける。受講生は教師やクラスメートと英語でやり取りすることが求められる。クラスのディスカッションに参加し、質問をし、コミュニケーションスキルの向上に積極的に取り組むことが期待される。また、オンライン語彙学習システムを使用して、毎週個別の語彙クイズを受ける。Speaking I よりもより長い間英語で話すことを目標とし、題材も日本や社会における時事問題やグローバルな話題を扱う。</p>	
Writing for Communication I	<p>本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連している。授業の目的は、英語で書くための基礎的なスキルを身につけ、ライティングを通して自分の意見を他者に表現することである。また、文法力を強化することによって正確に英語で自分の意見を表現することを学ぶ。受講生は、毎回異なる話題について一定の時間内に英文で自分の意見を書き、より長い英文を書くことができるようになる。また、パラグラフ構成を理解し、それをもとに複数のパラグラフからなる文章を作成していく。その際、文章の構成や展開を考えることが必要となるため、批判的思考力や表現力も養うことができる。パラグラフライティングの方法に基づき、正確な文構造と段落を使用して自分の考えを表現する。課題として、毎週題材となるリーディング教材を読み、それについて英語でまとめたパラグラフを書く。また、ライティングをクラスメート同士で修正・評価することでより相手に伝わりやすい文章を書くことを学ぶ。</p>	
Writing for Communication II	<p>本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連しており、Writing for Communication I に続くコースである。授業の目的は、英語で書くための発展的なスキルを身につけ、ライティングを通して自分の意見を他者に表現することである。また、文法力を強化することによって正確に英語で自分の意見を表現することを学ぶ。受講生は、毎回異なる話題について一定の時間内に英文で自分の意見を書き、より長い英文を書くことができるようになる。また、パラグラフ構成を理解し、それをもとに複数のパラグラフからなる文章を作成していく。その際、文章の構成や展開を考えることが必要となるため、批判的思考力や表現力も養うことができる。パラグラフライティングの方法に基づき、正確な文構造と段落を使用して自分の考えを表現する。課題として、英字新聞や雑誌記事、論文など様々なリーディング教材を読み、それについて英語でまとめたパラグラフを書く。また、ライティングをクラスメート同士で修正・評価することでより相手に伝わりやすい文章を書くことを学ぶ。</p>	
Reading I	<p>本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連している。この授業の目的は、基礎的な読解力と英語で読むことに対する前向きな態度を身につけることである。受講生は、自分の能力に適したレベルで、また読書の自信を高める目的でさまざまな段階的なリーディング課題を選択して読んでいく。理解度を確認するため、オンラインで小テストに回答する。シャドーイングやオーバーラッピングなどの音読テクニックも学び、習得します。文学作品、絵本、新聞、雑誌記事、オンライン記事など様々なリーディング教材を読み、それについて受講生が評価し、意見を述べることで求められる。読んだ題材について英語でディスカッションを行うことで、批判的思考力も養う。</p>	
Reading II	<p>本授業は、グローバル化した社会における実践的な英語でのコミュニケーション能力に関連しており、Reading I に続くコースである。この授業の目的は、読解力さらに伸ばし、英語で読むことに対する前向きな態度を身につけることである。受講生は、自分の能力に適したレベルで、また読書の自信を高める目的でさまざまな段階的なリーディング課題を選択して読んでいく。理解度を確認するため、オンラインで小テストに回答する。シャドーイングやオーバーラッピングなどの音読テクニックも学び、習得する。文学作品、絵本、新聞、雑誌記事、オンライン記事に加え、学術論文など様々なリーディング教材を読み、それについて受講生が評価し、意見を述べることで求められる。読んだ題材について英語でディスカッションを行うことで、批判的思考力も養う。</p>	

English Phonetics I	<p>本授業では、英語の音声の仕組みを習得するための基礎トレーニングを行う。母音の個々の発音方法に加え、単語のアクセント、英文のリズム・イントネーション、音のつながりについての理論を実践を通して身につける。高等学校までに学んだ音声についての知識を復習しつつ、発音記号（IPA：国際音声記号）も学ぶ。学んだ音声学理論を実践するために、授業時間内でも演習時間が多く設けられる。さらに、学んだ理論を習得し上達させるため、録音課題と発音の実技テストを行う。録音課題と実技テストは、個別に評価とフィードバックが行われる。洋楽、YouTube動画、携帯電話も活用しながら、発音を上達させていく。</p>	
English Phonetics II	<p>本授業は、英語の音声の仕組みを習得するための基礎トレーニングを行う。English Phonetics I で学んだ母音の発音方法に加え、子音の個々の発音方法、単語のアクセント、英文のリズム・イントネーション、音のつながりについての理論を実践を通して身につける。English Phonetics I で学んだ音声学の知識を復習し、発音記号（IPA：国際音声記号）も学ぶ。学んだ音声学理論を実践するために、授業時間内でも演習時間が多く設けられる。さらに、学んだ理論を習得し上達させるため、録音課題と発音の実技テストを行う。録音課題と実技テストは、個別に評価とフィードバックが行われる。洋楽、YouTube動画、携帯電話に加えて洋画も活用しながら、発音を上達させていく。</p>	
English Presentation I	<p>本授業では、人前で英語でプレゼンテーションを行う力を養う。発表のトピックに合った英単語や英語表現、英語プレゼンテーションの基本構成について学び、発表において実践することで、それらの技術を習得する。また、ジェスチャーやボディランゲージなどの非言語コミュニケーションスキルを学び、自分の気持ちを強調したり、プレゼンテーションをより効果的にすることも学ぶ。さらに、自己評価と他者評価を通して、自分自身と他の受講生の発表を客観的に評価することができるようになる。</p>	
English Presentation II	<p>本授業では、English Presentation I で習得した英語でプレゼンテーションを行う力をさらに発展させていく。よりグローバルなトピックについて英語で発表を行う。トピックに合った英単語や英語表現、英語プレゼンテーションの基本構成について学び発表において実践することで、それらの技術を習得する。また、ジェスチャーやボディランゲージなどの非言語コミュニケーションスキルを学び、自分の気持ちを強調したり、プレゼンテーションをより効果的にすることも学ぶ。さらに、リサーチに基づき図やグラフを発表で使用し、研究発表の方法についても学ぶ。自己評価と他者評価を通して、自分自身と他の受講生の発表を客観的に評価することができるようになる。</p>	
Communicative English I	<p>本授業では、グローバル化した現代社会の様々な場面で、英語でコミュニケーションを取るための実践的な能力を習得する。具体的には、英語圏の国々で提供される文化・歴史・社会に関するニュース記事や映像等を調査し、それらを読み込み、聞き取った上で内容をエッセーにまとめ、クラス内でプレゼンテーションする。こうすることで、英語の四技能をバランス良く習得しながら、グローバル社会で求められるコミュニケーションする能力を向上させる。形式は講義の他、グループ活動やプレゼンテーション等を組み合わせた形で行う。</p>	
Communicative English II	<p>本授業では、Communicative English Iの発展として、グローバル化した現代社会の様々な場面で、英語でコミュニケーションをとるための実践的な能力をさらに深く習得する。具体的には、日本や世界で生じる文化・歴史社会の諸問題に関してより専門性の高い記事や報道等を英語で読み、聞き取った上で、それをエッセーとしてまとめ、プレゼンテーションし、トピックに関するディベートを行う。これによって、流暢かつ正確にコミュニケーションする能力を高めることを目的とする。形式は講義の他、グループ活動、プレゼンテーション、ディベート等を複合した形で行う。</p>	
英語資格講座 IA	<p>本授業は、国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC）を通して実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。また、受講時にTOEIC180点以上の成績を証明できる受講生を対象としている。次のレベルはTOEIC350点レベルのクラスとなっており、この点数の到達を目標としている。TOEIC試験そのものについての基礎知識を学んだ後、リスニングパートのスコアを向上させるのに必要な語彙・熟語を学ぶ。さらに、リーディング問題を解くのに必要な基本文法を復習していく。毎回の授業において単語テストを行い、授業の復習を行うことで語彙力と文法力を養う。</p>	

英語資格講座 IIA	<p>本授業は、国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC) を通して実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。また、受講時にTOEIC180点以上の成績を証明できる受講生を対象としている。次のレベルはTOEIC400点レベルのクラスとなっており、この点数の到達を目標としている。TOEIC試験そのものについての基礎知識を学んだ後、リスニングパートのスコアを向上させるのに必要な語彙・熟語を学ぶ。さらに、リーディング問題を解くのに必要な基本文法を復習していく。毎回の授業において単語テストを行い、授業の復習を行うことで語彙力と文法力を養う。</p>	
英語資格講座 IB	<p>本授業は、国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC) を通して実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。また、受講時にTOEIC350点以上の成績を証明できる受講生を対象としている。次のレベルはTOEIC500点レベルのクラスとなっており、この点数の到達を目標としている。TOEIC試験そのものについての基礎知識を学んだ後、リスニングパートのスコアを向上させるのに必要な語彙・熟語を学ぶ。さらに、リーディング問題を解くのに必要な文法を復習し、また正確に理解するためにより発展的な文法事項も学ぶ。毎回の授業において単語テストを行い、授業の復習を行うことで語彙力と文法力を養っていく。</p>	
英語資格講座 IIB	<p>本授業は、国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC) を通して実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。また、受講時にTOEIC400点以上の成績を証明できる受講生を対象としている。次のレベルはTOEIC550点レベルのクラスとなっており、この点数の到達を目標としている。TOEIC試験そのものについての基礎知識を学んだ後、リスニングパートのスコアを向上させるのに必要な語彙・熟語を学ぶ。さらに、リーディング問題を解くのに必要な文法を復習し、また正確に理解するためにより発展的な文法事項も学ぶ。毎回の授業において単語テストを行い、授業の復習を行うことで語彙力と文法力を養っていく。</p>	
英語資格講座 IC	<p>本授業は、国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC) を通して実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。また、受講時にTOEIC500点以上の成績を証明できる受講生を対象としている。リスニングパートにおいては、長文の聞き取りに特化して訓練を行う。スコアを向上させるのに必要な語彙・熟語に加え、背景知識についても学習する。さらに、リーディングのスコアを向上させるために必要な文法事項を学習し、様々な文法問題に取り組む。毎回の授業において単語テストを行い、授業では音読を行うことで語彙力と文法力を着実に習得し、より高いスコアを目標とする。</p>	
英語資格講座 IIC	<p>本授業は、国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC) を通して実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。また、受講時にTOEIC550点以上の成績を証明できる受講生を対象としている。リスニングパートにおいては、長文の聞き取りに特化して訓練を行う。スコアを向上させるのに必要な語彙・熟語に加え、背景知識についても学習する。さらに、リーディングのスコアを向上させるために必要な文法事項を学習し、様々な文法問題に取り組む。毎回の授業において単語テストを行い、授業では音読を行うことで語彙力と文法力を着実に習得し、より高いスコアを目標とする。</p>	
観光英語A	<p>基本となる英語スキルを基に海外旅行者及びインバウンド旅行者を想定とした実用的な英語表現力を養う科目である。空港、観光地、ホテル、レストランなどの様々なロケーションにおいて想定されるシチュエーションで使用する英語表現力を学ぶ。海外旅行へ出かけたことを想定したロールプレイ練習、テキストやメディアを使用した練習などにより実務的なコミュニケーションスキルを具体的に学ぶ。日常生活で使用する表現方法だけでなく、各観光関連施設で使用する専門用語表現があり、将来、実際に観光産業で働く際には非常に有効的な科目内容となっている。</p>	
観光英語B	<p>インバウンド旅行者を対象とした日本国内の観光地におけるガイドブックや英語看板作成の際の英語表示力を学ぶ。そのためには対象地域の歴史、文化及び社会を日本語で正しく理解し、異文化の人々にどう表現することが適切かを考えることが求められる。一般的なコミュニケーションスキルとは異なる観光特有の表現方法があり、日本人的な感覚ではなく、英語ネイティブやインバウンド旅行者が自然に違和感なく正しく理解できる英語表現方法を学ぶ。</p>	

日本語表現 I	<p>本授業では、日本語でのコミュニケーション向上に必要な基礎知識を学修するとともに、多様なスタイルのコミュニケーションを観察したり実践したりすることで、コミュニケーション能力の基礎力をつける。具体的には、大学生活及びこれからの社会生活で必要となる作文能力や文章構成能力を向上させ、各状況に応じてそれらを表現できる力を身につけることができる。また、将来社会に出た際に活用できる実践的な表現技法や、コミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
日本語表現 II	<p>本授業では、日本語でのコミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、多様なスタイルのコミュニケーションを観察・実践することで、コミュニケーション能力の基礎力をつける。これによって、大学生活及びこれからの社会生活で必要となる「話す」能力や「聞く」能力を向上させ、TPOに応じた力を身につけることができる。また、将来社会に出た時に活用できる様々な表現技法や、コミュニケーション能力の基礎を学ぶことができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
日本語表現 III	<p>本授業では、日本語でのコミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、実際に多様なスタイルのコミュニケーションを観察したり実践したりすることで、コミュニケーション能力を発展させる。特に、これからの社会生活で必要となる「話す」能力や「聞く」能力を向上させ、多面的に活用できる技術を習得する。また、社会における書類の作成方法の基礎や常識も同時に学ぶ。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
日本語表現 IV	<p>本授業では、日本語でのコミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、実際に多様なスタイルのコミュニケーションを観察したり実践したりすることで、コミュニケーション能力を一層発展させる。特に、これからの社会生活で必要となる「読む」能力、「話す」能力、「聞く」能力、「書く」能力を向上させ、社会生活においてTPOに応じた実践力につけることができる。また、将来社会に出た時に活用できる様々なさらなる表現技法や、コミュニケーション能力を身につけることができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
基礎ゼミナール I	<p>誰とでも、或いはどの様な組織、集団とでも深いコミュニケーションが成立するためには相手方の考え方、行動様式などを知る必要がある。換言すると自分以外の文化を理解することが大前提と言える。異文化を意識するのは必ずしも国を異にする場合だけではない。自らのごく近い周囲にも異文化問題は存在する。異なる文化間で交流が成り立つためには相互が彼我の違い、同質性などを理解することが肝要であり、その前提としてまず自らを知ることが大切である。一方、自らを知るためには異文化と対照することも有益であり、合わせ鏡のように向き合い、対比することで彼我の文化それぞれへの理解も進むであろう。本講では様々な文献や Topics を取り上げ、クラスでの議論を通して異文化への理解と交流を円滑にする方法を学ぶことを目標とする。</p>	
基礎ゼミナール II	<p>基礎ゼミナールIを通して考え続けた「自らの問題意識」を明確にしなが、自分の選んだテーマに沿って大学の授業で要求されるレポートを作成する。その過程で、アウトラインの立て方、情報の探索と活用の方法、学術的記述方法などの、レポートを作成する上で必要な知識とスキルを習得する。さらに、論理的に自らの考えを表現し、発信していく力を涵養する。レポート作成やプレゼンテーションについては、最初は日本語で作成し、次の段階として、日本語・英語の両言語での作成を自動的に行える力をつける練習を行う。「自らの問題意識」という観点については、主観的な観点や表現で表されるものに加えて、いかに客観的な根拠を提示できるか、あるいは述べられるか、という点が重要になってくる。そのために、各自の学びに応じた問題がどのような客観的なデータで示されるべきなのか？レーダーチャートなどを活用して示す方法を学ぶ機会とする。</p>	

サステイナブルな社会	<p>本授業では、持続可能な発展という21世紀型の科学の進め方に視点を置き、現代社会における環境を考えるとときに必要な各種基礎知識の習得し、持続性における各種問題点を捉え、同時に世界の動き・企業・市民の実際の取り組みなどを学ぶことで、持続可能な社会のあり方を学んでいく。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。</p>	
日本のポピュラーカルチャー	<p>本授業では、現代日本におけるさまざまなメディア文化やポピュラー文化を取り扱い、その歴史的背景や社会的な構築状況を理解する。また、複数の事象を統合的に学ぶことで、それぞれの分野での作品の鑑賞力・批評力を高める。さらに、海外での展開や捉えられ方についても理解を深め、世界的な視点からも日本の文化状況への理解を深める。結果として、流動的に変容する現代日本のポピュラー文化のありかたを複合的に捉えることができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。</p>	
アニメーション論	<p>本授業では、国内外のアニメーション／アニメを対象にし、各作品を社会学、メディア学、芸術学、歴史学的な知を応用しつつ理解することで、メディア・コンテンツを分析する手法を身につける。それによって、各作品の社会的な課題・問題を理解し説明することができるようになる。また、課題や問題を自ら設定し、論理的・批判的に考察することで、能動的に学ぶことができる。さらに、国内外のさまざまな作品を学ぶことで、表象の問題や文化的・社会的課題を発見することができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。</p>	
時事ニュース（国内）Ⅰ	<p>本授業では、日本の各種新聞や報道の把握のみならず、日本で出版されているAsahi Weekly、天声人語などの記事も一部読むことで、自国を中心しつつ、各種の時事問題やそれと関連する国際的な問題をとりあげ、自国の様々な分野のニュースを理解することを目標とする。それによって、日本語の各種分野の時事ニュースについて他者と意見交換ができるようになる。また、日本の社会や文化、日本人の行動様式について具体的に述べられるようになる。さらに、日本の社会や文化を他国のそれと比較・検討し、幅広い視野を得ることができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。 (オムニバス方式全15回) (3 根尾 文彦/5回) 地域社会に関わる時事ニュースについて取り上げ、講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを通して学ぶ。 (4 笹生 友広/5回) 国際社会に関わる時事ニュースについて取り上げ、講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを通して学ぶ。 (10 柳田 綾/5回) 教育に関わる時事ニュースについて取り上げ、講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを通して学ぶ。</p>	オムニバス方式
時事ニュース（外国）Ⅱ	<p>本授業では、欧米の各種新聞や報道に関心を向け、国外の問題や国際的な問題をとりあげることによって、自国を含めた様々な分野の時事ニュースを理解することを目標とする。そうすることで、他国の時事ニュースについて他者と意見交換ができるようになる。また、他国の社会や文化、行動様式について自分の意見を述べるようになる。さらに、他国の社会や文化を自国のそれと比較・検討することができるようになる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。 (オムニバス方式全15回) (5 布 和/5回) 東アジアを中心に国際社会に関わる時事ニュースについて取り上げ、講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを通して学ぶ。 (8 小林 愛明/5回) アメリカを中心に国際社会に関わる時事ニュースについて取り上げ、講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを通して学ぶ。 (9 井川 恵理/5回) ヨーロッパを中心に国際社会に関わる時事ニュースについて取り上げ、講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを通して学ぶ。</p>	オムニバス方式

アメリカ文学入門	<p>本授業では、主にグローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を身につけるべく展開される。具体的には、アメリカの代表的な文学作品を読み、歴史・文化・地理的背景について学び、各作品の暗記や朗読、分析とレポート、議論と発表などを行い、さらに、グループワーク、演技・朗読、プレゼンテーションなどの活動を実施する。これによって、アメリカ文学における名詩、名場面、名台詞の暗唱ができるようになる、また、アメリカ文学における代表的作家を熟知できるようになる、さらに、アメリカ文学における代表的作品の歴史・文化・地理的背景を他者に説明できるようになる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。</p>	
イギリス文学入門	<p>本授業では、シェイクスピアから現代に至る作家のイギリスの代表的な文学者達の特徴を文学史的な流れの中で確認しつつ、同時に国を構成するネイションの特徴や各時代の文化・歴史・地理的背景に関する学ぶ。また、文学作品に先行する形として、英語の基礎的知識である欽定訳聖書や作家たちが重視した音や韻を理解するためナーサリーライム等に関する学ぶ。方法としては、講義を基本としつつ、各作家の名文の一部を暗記や朗読し、英語の語感を文化的・歴史的・身体的側面から鍛錬する。また、作品分析を通じて自己批判力を高めつつ、ミニレポートを作成し、それを元に議論することで、学問に対する客観的な姿勢や自己表現力の発展を促す。</p>	
楽しい古典芸能	<p>本授業では、日本の古典芸能を広く学ぶことで、各時代を代表する芸術作品を取り上げてその価値を明らかにする。また、それらの作品が生み出されてくる背景となる芸術思想・宗教思想を理解することを目指す。時代は古代から江戸時代まで前近代の時代を対象とする。それによって、日本文化の特質について歴史的な見通しを得つつ、現代日本文化について考えることができる。また、日本の前近代における芸術作品を鑑賞・理解し、抱いた意見を言葉で表現することができる。さらに、日本の文化・芸術の背景にある芸術思想、宗教思想にさかのぼって理解することができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせる形で行う。</p>	
キャリアデザインⅠ	<p>本授業は就職を目指す学生の活動をサポートするための授業である。3年生の前期科目として、毎年のように大きく変動する社会環境の中で、タイミングを逃すことなく、就職活動全体の流れを把握し、自己分析で自分の適性を理解し、業界・業種・企業の特徴等の理解を進める。夏季から始まるインターンシップの重要性を理解し、それに向けたエントリーシート（志望動機、学生時代に頑張ったこと、自己PRなど）の作成方法を実践的に練習する。また、面接などでも必要なビジネスマナーの基本を学ぶ、多くの外部講師による専門的なサポート体制で、より学生に寄り添った科目である。</p>	
キャリアデザインⅡ	<p>本格的な就職活動を前に、より実践的な練習を行う。一般常識、SPIの模擬試験を実施し、本番に向けた試験対策を実施する。また夏季インターンシップの発表会を行い、他の学生がどのような活動を行っているかを知ることで自己研鑽に繋げる。自己学習では難しい個人面接練習、グループ面接練習を実施し、これまでに経験が少ない面接対策（Web面接含む）を重視している。本格的な就職活動及び社会人になってからも求められるより高度なビジネスマナーを身につける。また社会人になってから必要な労務知識についても学び、社会人としての基礎知識を学ぶ科目である。後期も多くの外部講師による専門的知識によるサポート体制で充実した内容である。</p>	
海外語学実習Ⅰ（英語圏）	<p>60時間程度の語学授業を含む現地研修を原則とし、グローバル化した現代社会における、英語での実践的なコミュニケーション能力の育成を、国内での準備や現地渡航を通じて学ぶ。具体的には、リストの中からプログラムを選択し、渡航準備書類を作成しつつ、留学先の国の文化や歴史等を英語の資料を通じて学ぶ。また、調査結果をクラス内で英語で発表し、自身の理解を深めつつ、自国を含めた複数の国の文化や歴史との差異も学んでいく。渡航先では、授業で英語力を向上させながら、その国の人々と生活することで他国の文化・歴史を理解していく。形式は講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、渡航準備を組み合わせることで、現地での実践力を高める。</p>	

<p>海外語学実習Ⅰ（韓国語）</p>	<p>60時間程度の語学授業を含む現地研修を原則とし、グローバル化した現代社会における、韓国語での実践的なコミュニケーション能力の育成を、国内での準備や現地渡航を通じて学ぶ。具体的には、大学が斡旋する教育機関を基本とし、渡航準備書類を作成しつつ、韓国社会の文化や歴史等を資料を通して学ぶ。また、韓国事情についての情報を主体的に収集し、自身の理解を深めつつ、自国の文化や歴史との差異を学んでいく。韓国では、授業で韓国語力を向上させながら、韓国の人々と触れ合うことで他国の文化・歴史を理解していく。形式は講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、渡航準備を組み合わせることで、現地での実戦力を高める。</p>	
<p>海外語学実習Ⅰ（中国語）</p>	<p>60時間程度の語学授業を含む現地研修を原則とし、グローバル化した現代社会における、中国語での実践的なコミュニケーション能力の育成を、国内での準備や現地渡航を通じて学ぶ。具体的には、大学が斡旋する教育機関を基本とし、渡航準備書類を作成しつつ、留学先の国の文化や歴史等を英語の資料を通じて学ぶ。また、調査結果をクラス内で発表し、自身の理解を深めつつ、自国を含めた複数の国の文化や歴史との差異も学んでいく。渡航先では、授業で中国語力を向上させながら、その国の人々と生活することで他国の文化・歴史を理解していく。形式は講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、渡航準備を組み合わせることで、現地での実践力を高める。</p>	
<p>海外語学実習Ⅱ（英語圏）</p>	<p>本授業では、4週間以上の現地研修（60時間以上の語学授業）を原則とし、学生が独自で開拓した研修先を大学の基準に沿って審査を行った上で実施する。国際社会への貢献を目指し、より実践的な英語コミュニケーション能力を育成する。その過程で、ネイティブが指導する環境で実際に英語を使う機会を増やし、現地では各自選択した異国での文化・歴史に直接触れ、グローバル社会における様相をより深く理解していく。また、出発前と帰国後にジャーナルやポスター等の作品を準備し、自立した学習者として、国際的な社会人となるための機会とする。準備クラスでは、自分の目標とそれを達成するための計画を講師に英語で発表し、他の受講生と意見交換を行う。留学後は、自分の経験を講師や他の学生に理解してもらうために、クリティカルシンキングを用いながら発表の準備をする。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせ、現地での実践力を高める。</p>	
<p>海外語学実習Ⅱ（韓国語）</p>	<p>4週間以上の現地研修（60時間以上の語学授業）を原則とし、学生が独自で開拓した研修先を大学の基準に沿って審査を行った上で実施する。韓国社会と文化への理解を深め、高度の韓国語力を身に付けることを目的とする。現地研修の事前事後学習として、韓国留学のために必要な幅広い知識を身につけ、韓国事情に関する情報を主体的に収集する。具体的には、研修先のカリキュラムやプログラムを理解し研修計画を立てること、留学先の学習・生活環境を調べることで、研修中の安全危機管理ができるようにすることなどである。研修日誌の作成及び研修中の活動をまとめた動画制作と発表が義務付けられる。</p>	
<p>海外語学実習Ⅱ（中国語）</p>	<p>本授業は、4週間以上の現地研修（60時間以上の語学授業）を原則とし、学生が独自で開拓した研修先を大学の基準に沿って審査を行った上で実施する。より実践的な中国語コミュニケーション能力を育成することを目的としている。履修する学生は、海外の環境で中国語を学ぶプログラムを選択して参加し、現地の日常生活や文化歴史に直接触れながら、異文化をより深く理解していく。プログラムは講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた学習形式となる。一連のプログラムの学習を通して自身の実践的な中国語力をより一層高めていく。また、留学後は、自分の経験を講師や他の学生に理解してもらうために、クリティカルシンキングを用いながら実習体験を発表することになる。</p>	
<p>情報リテラシーⅠ</p>	<p>本授業は、大学生生活や将来社会人として必要となるウェブに関する基礎知識の習得を目的とする。学生にとって身近なSNSなどのコミュニケーションツールをはじめとしてウェブのさまざまなサービスの歴史的背景やそれを支える基本技術を知ること、日常生活や研究活動における情報収集の際に必要なリテラシーを身につける。最新技術やサービスについて、演習やディスカッションを取り入れて学生が主体的に取り組める授業とする。</p>	

情報リテラシーⅡ	本授業は、前期に学んだウェブに関する基礎知識を踏まえて、ウェブを利用するにあたって注意しなければならないセキュリティに関する専門的な知識、著作権および肖像権の取り扱いなど法的な問題、SNS利用のマナーやモラルの問題、現在のウェブが抱える社会的な問題点と今後の展望などについて事例を通してより実践的に学び、演習やディスカッションを通して理解を深める授業である。	
ITスキル応用Ⅰ	実社会におけるIT化が日々進歩する現代において、「情報システム」は欠かすことができない。通常、情報システムは、その開発を専門とする業界のエンジニアにより、設計・開発されている。日々発生する膨大な情報を正確かつ迅速に処理し、社会の発展に役立てていくためには、如何に利用者の要求を満たすシステムを構築するかが重要である。本授業は、情報システムの開発（特に実装）に必要なプログラミング技術、ネットワークに関する知識・技術などを基礎から始めて、応用の領域まで学ぶ予定である。	
ITスキル応用Ⅱ	実社会におけるIT化が日々進歩する現代において、「情報システム」は欠かすことができない。通常、情報システムは、その開発を専門とする業界のエンジニアにより、設計・開発されている。日々発生する膨大な情報を正確かつ迅速に処理し、社会の発展に役立てていくためには、如何に利用者の要求を満たすシステムを構築するかが重要である。本授業は、前期に習得した知識・技術活用方法をベースとして、クラウドに関する概念、EXCELベースのデータベース機能やCADに関する知識・技術を加えた、「応用領域」を中心とした学修を展開する予定である。	
データサイエンス基礎	本授業では、日々ウェブ上に蓄積される大量のデータ（ビッグデータ）をコンピュータを用いて分析するデータサイエンスの基礎を学び、ビッグデータから機械学習によって意思決定や問題解決を行う仕組みについて学ぶ。さまざまな分野におけるビッグデータの活用事例や、それによって生じる社会的問題についても考察する。形式は講義、グループディスカッション、演習を組み合わせた形で行う。	
コンテンツ制作	本授業は娯楽面だけでなくビジネス面でも急速に注目度とニーズが高まっているウェブの動画コンテンツを制作するための知識と技術を身につける。多様な既存コンテンツの視聴と分析から始まり、独自の作品の企画・撮影・編集・公開という一連の作業を通して、最新のメディア・リテラシーを体験的に学ぶとともに、社会に対する独自の視点を獲得することができる。形式は講義とスマートフォンやタブレット、ノートPC等を使った実習の形で行う。	
中国語検定対策	中国語検定試験の合格に向けて試験対策を行う授業である。授業では、主に4級から3級の合格を目指す学生を中心にリスニング問題及び筆記問題の解説と対策法を説明する。リスニング問題では、基本単語に対する習熟度が問われるため、繰り返し聞きなれることが必要で、そのための学習と練習を行う。また、級が上がることに関わる文が長くなるため、メモする能力も鍛える予定である。筆記問題の対策では、文法面の難点を中心に解説し、基本文法以外に、常用法や口語との違いを重点的に説明する。本授業は、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力という能力の養成に関連している。	
中国語リスニング&スピーキング	本授業のポリシーは、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力の育成にあり、具体的に言えば現代中国語の聞き取り及び会話力を高める目的にある。授業では、簡単な中国語会話から学習し、徐々に日常会話の勉強に入っていく。聞き取り能力及び会話力を高めるための学習環境を大事にし、教員の発音だけでなく、視聴覚資料も運用する予定である。また、会話練習時の発声を大事にし、難しいと思われる音声の発音を繰り返し行う予定である。同時にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けたい。このような一連の学習過程を通して、より高い中国語会話力を身につけてほしい。	

中国語リーディング&ライティング	<p>本授業のポリシーは、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力の養成にあり、具体的に言えば、現代中国語の理解力と文書力を高めることを目的とする。授業では簡単な中国語文書の学習からはじめて、徐々に専門性の高い文書の読み、理解と作成の作業を行う予定である。15回の授業を通して中国語に関する高い理解力と作成能力を培っていく。また、授業の前後に文書の理解や作文の課題を課する予定である。この一連の学習を通して、学生たちに中国語に関する深い理解力と作文力を確実に得られるようにしたい。</p>	
日中交流史	<p>本授業は、日本と中国の政府或いは民間交流の歴史を通して、日中交流関係の全体を眺めるものである。授業では、古代から近現代までの日本と中国の歴史を関連史料を提示・解説しながら講義し、東アジアにある両国の古くからの付き合いの過程を明らかにする。なお、授業で提示した史料の背景や意味理解に関しては学生に問いながら説明を行う、また必要に応じて視聴覚資料も使用する。15回の授業、また自身が作成する課題を通して、日中交流史についての理解が一層深められ、新たな視点で日中関係を見つめ直すことができるように期待する。</p>	
ビジネス環境とマーケティング	<p>この講義では、グローバルマーケティングの基礎を学びつつ、世界市場におけるブランド戦略について議論する。また、事業のグローバル展開という視点からマーケティングを検討し、市場におけるブランド戦略を概観する。こうしたグローバルマーケティング及びグローバルブランド戦略の理論を理解し模擬実践することで、将来の実務で活用する力を養うことができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
学校文化と英語学習	<p>本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。本授業においては、小学校における外国語活動や英語教育について、学習指導要領を中心に分析し、①導入の経緯②望ましい教員の質③授業案作成時の注意事項④中学校英語との関わり⑤国際理解教育の質等を学んでいく。授業方法としては、学習指導要領分析を中心として日本の学校教育が求める英語学修内容を広く理解するための講義が中心となるが、望ましい英語学習方法や、学習者が実際に求める英語授業のあり方について受講者に参加してもらったディスカッションも適宜実施する。</p>	
Advanced Writing I	<p>本授業では、グローバル化した現代社会において、英語でコミュニケーションするための実践的な能力を、英章作成力の面から向上させる。具体的には、パラグラフライティング等の基礎的な知識を身に付けつつ、実際にエッセーを作成し、クラス内で発表・議論することでライティング技術の向上を図る。また、学術論文等の検索の仕方、論文でよく使用される用語・フレーズ等も学びつつ、各自のエッセイの執筆に対する骨組みとして活用し、より具体的な文章作成能力を身につける。形式は講義の他、学習効果の確認に応じてグループ活動やプレゼンテーション等々を組み合わせて行う。</p>	
Advanced Writing II	<p>本授業では、Advanced Writing Iでの学びを発展させる形で、グローバル化した社会で、英語でコミュニケーションするための実践的な能力を、英語による論文作成等を通じて学習する。具体的には、各研究プロセスを学びつつ、よりアカデミックなエッセイの執筆に関する知識を身につける。また、トピックの絞り込み方や要約の仕方、アウトラインの書き方、言い換えや学術用語の正確な使用方法、出典の引用の仕方や参考文献の作成方法も学ぶ。さらに、実際に作成したエッセーを教室内で発表し、未決になった箇所に関してさらに推敲を行う。形式は講義の他、学習効果の確認に応じてグループ活動やプレゼンテーション等を複合した形で行う。</p>	
Business English	<p>本授業では、ビジネス英語の語彙や表現、及び、基礎的な文法を強化し、TOEIC(L&R)等の各種英語資格検定に対応できるリスニング及びリーディング力を育成する。具体的には、ビジネスに関する実践的なテキストを用いることで、語彙力・文法力・リスニング力・読解力を伸ばし、さらに、ビジネス場面で用いられる表現を理解し、運用できるようになる。また、各種英語検定において成果が出せるようになる。形式は講義の他、学習効果の確認に応じてグループ活動やプレゼンテーション等々を組み合わせた形で行う。</p>	

Communicative English III	<p>グローバル化した社会において英語でのコミュニケーション力を強化する科目である。英語を読み、書き、聞き、話す4技能を用いて正確な英語で世界情勢について議論することを目指す。3週間のサイクルで、異なる事柄について学ぶ。最初の2週間で講師が項目の内容を解説する。学生たちは授業外でその内容を調べ、ペアまたは小グループで議論をする。この作業においては複数の英語の時事記事を読むことが認められる。中間、期末で世界情勢に関わる事項についてペアまたはグループでの発表を行う。毎週リフレクションを記し、思考を深める。</p>	
Communicative English IV	<p>Communicative English IIIでの学びを発展させる形でさらに高度な英語でのコミュニケーション力を獲得する科目である。英語を読み、書き、聞き、話す4技能を総合して、自分の考えを持ち、正確で滑らかな英語で世界情勢について議論することを目指す。3週間のサイクルで、異なる事柄について学ぶ。最初の2週間で講師が項目の内容を解説する。学生たちは授業外でその内容を調べ、ペアまたは小グループで議論をする。この作業においては複数の英語の時事記事を読むことが認められる。中間、期末で世界情勢に関わる事項についてペアまたはグループでの発表を行う。毎週リフレクションを記し、思考を深める。</p>	
英語翻訳・通訳	<p>英語・日本語の翻訳・通訳の入門コースである。このコースを修了すると、基本的な翻訳・通訳方法と心構えが習得できる。また、様々な分野の翻訳・通訳に必要な語彙や表現を身につけることができる。臨機応変に対応する柔軟性、多様な分野についての背景知識を有する大切さを理解すると同時に、通訳におけるメモの取り方等、具体的かつ実践的なスキルも身につけることができる。</p> <p>(オムニバス方式全15回) (8 小林 愛明/8回)</p> <p>翻訳では、メール、技術解説文、物語等を用い、内容理解と目的に合った文章形式を学ぶ。 (51 兼任 笹岡篤子/7回)</p> <p>通訳では各種ニュース放送や動画などのさまざまな資料を用いて、ディクテーション、ロールプレイ、プレゼンテーション等の実践を通して通訳のスキルを習得する。</p>	オムニバス方式
Speech & Presentation	<p>English Phonetics I, II で学んだ英語音声学の知識を復習しつつ、日本人学習者が誤りやすい個々の音素の発音、英単語の発音・アクセント、英文のリズム・イントネーションについての理論を学び、英語の正確な発音方法を習得する。発音方法だけでなく、まとまった英文を自分なりに理解・解釈し、原文が意図した聞き手に語る練習を行う。教材としては、スピーチ、詩、手紙、アナウンス、ストーリーテリングなど様々なものを学習し、効果的なスピーチやプレゼンテーションができることを目標とする。</p>	
British Studies	<p>本授業は、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国の過去と現在の文化、社会、宗教を学び、現代のイギリスを形成する4つの国の特徴について俯瞰的に理解することを目的とする。そのために王室のシンボルや盛んなスポーツや文学作品、世界遺産、各種行事、ジェンダー意識の変化を通じて、日本とは異なる文化・歴史を多角的に理解し、批判的思考力を鍛える。また、各自で地域や歴史に関連するトピックを絞りこみ、それについて調査・発表し、議論を経た上に期末レポートを作成することで理解をさらに深め、同時に表現力を高める。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
American Studies	<p>本授業では、先住民をはじめとするアメリカに住む多様なルーツを持つ人びとの歴史的経験を通して、アメリカ合衆国の文化と社会における諸問題を考察する。アメリカの歴史において「周縁化」されてきた「他者」の経験に注目し、現代のニュースに取り上げられる問題と関連づけて捉えることで、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力や、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身に着けることができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
Theory of English Structure	<p>本授業で受講生は 1) 言語学と英語学 2) 言語習得 3) 形態学 4) 音韻論 5) 意味論 6) 統語論 7) 語用論の7つの分野について学ぶ。ことばや文法とは何か、人はどのようにことばを獲得するのか、普遍文法、語彙範疇と機能範疇、統語構造、Xバー理論、数量詞と代名詞等について学習していく。毎回の授業では、授業で学んだことのふりかえりを書く。また、一章学習するたびに小テストを受け、レポートに取り組むことにより知識の定着を図る。</p>	

American Literature	<p>本授業では、アメリカ合衆国の文学史を広く網羅する形で重要な作品を取り上げ、それらを社会・歴史背景とともに読み解く。同時に、関連する時代思潮、思想潮流についても学び、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を身につける。それらの成果として、アメリカ文学の基礎的な知識を身につけつつ、アメリカ文学作品を原文で読み、解釈する能力を習得することができる。また、文学作品を通して、批判的思考能力を鍛錬することができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
British Literature	<p>本授業では、イギリス社会の文化的・歴史的背景の基礎を学びつつ、シェイクスピア等のイギリス文学の代表的な作品を原文で読み解く技術を養成する。まず英語圏伝承童話や児童文学を通して音の世界がどのように作品に生かされているかを理解する。そして作品の原作と映画版の比較等を通じて、表象に関するより広範な知識を学ぶ。また、有名な文章を声に出して読み、演劇の一部を再現することで、英語の語感を身体的に鍛えることも目標とする。これらによって異文化をいっそう深く理解し、同時に批判的思考能力を育成する。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
International Relations	<p>本授業では、国際関係論の内容を踏まえつつ、日常的に各メディアで見聞するテーマを具体的にとりあげ、人間・経済・政治の三つの視座から、各国の歴史、社会、文化的理解を深め、総合的判断力や批判力を高める。それにより、国際関係上の様々な問題の歴史的経緯と論点が理解できるようになる。また、複雑に対立しつつ存在する国際問題に関して自分の意見ももてるようになる。さらに、国際的な観点から日本を振り返ることで、自国の理解を深めることができる。形式は講義、グループディスカッション、およびプレゼンテーションを組み合わせた形で行う。</p>	
Study Abroad Preparation A	<p>本授業は、後期からスタートする留学のための準備講座として、長期留学先授業における英語での講義やディスカッションに対応できる英語力、論理的思考力、表現力を身につけるための授業である。日本と他国の生活を比較しながら、習慣、文化行事、ジェンダー意識、社会制度などがどのような歴史的背景、伝統文化に基づいているのか、事例に基づき分析しながら議論し、事象を理解する。事前学習に基づき、各自の意見をまとめ、授業でその意見に基づきディスカッションやプレゼンテーションを行い、他の学生の考えを参考にしながらさらに理解を深めていく。長期留学を計画していない場合でも、高いレベルの英語での議論を求める学生は履修が可能である。</p>	
Study Abroad Preparation B	<p>本授業は、前期からスタートする留学のための準備講座として、長期留学先授業における英語での講義やディスカッションに対応できる英語力、論理的思考力、表現力を身につけるための授業である。日本と他国の生活を比較しながら、習慣、文化行事、ジェンダー意識、社会制度などがどのような歴史的背景、伝統文化に基づいているのか、事例に基づき分析しながら議論し、事象を理解する。事前学習に基づき、各自の意見をまとめ、授業でその意見に基づきディスカッションやプレゼンテーションを行い、他の学生の考えを参考にしながらさらに理解を深めていく。長期留学を計画していない場合でも、高いレベルの英語での議論を求める学生は履修が可能である。</p>	
多文化社会論	<p>「国籍や民族などの異なる人々が文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会」とはどのようなことなのかについて具体例を踏まえながら考察していく授業である。国籍・民族などの違いを中心に据えながらもジェンダー・セクシュアリティの違いや、健常者・障害者の関係にも目を向ける。マジョリティ・マイノリティとは何か、社会制度や組織がどのようにマジョリティ・マイノリティに影響を与えているのか、差別や抑圧のより少ない社会を作るために必要な取り組みは何かについて理解を深める。</p>	
日本語概論	<p>言語の普遍性と個別性に注目しながら日本語の学習と教育に必要な日本語学の基礎的知識を学ぶ授業である。また、日本語の特徴や用法について日本語学的な視点から説明できるようにすることがこの授業の目標でもある。日本語の音声、文字・表記、文法などに関わる必要な言語理論の基礎について習得していくことで、日本語学習者の日本語使用を観察したとき日本語の特徴を客観的に分析できるようになる。</p>	

日本語教育概論 I	<p>初めて日本語教育に触れる学生を対象に、日本語教師としての基本的な知識、態度、考え方、コミュニケーションスキルを学ぶ授業である。日本語を母語としない学習者を対象に日本語学習をどのように支援できるかを理解する。日本語教育の歴史や現状をはじめ、コースデザインや日本語教授法の基本を学びつつ、ニーズや目標の異なる学習者に対する支援の実態をしっかり理解した上で、どのようにしたら相手に合わせたより効果的な支援ができるかを主体的に考察する。自分の言語教育や学習スタイルの経験と照らし合わせながら日本語教育の特徴をつかむことが目標である。</p>	
日本語教育概論 II	<p>日本語学習者の様々なレベルと背景に応じた日本語学習について理解を深める。学校型の日本語教育と地域型の日本語教育、年少者に対する日本語教育の違いなどを理解する。さらに「日本語教育概論 I」の内容を踏まえ、読む・聞く・書く・話すといった技能別学習指導をより具体的に学ぶ。そして、代表的な教材や教具の比較と分析を通して実践のイメージをつかむ。その中で、母語話者としての日本語の使い方と外国語として学ぶ日本語との違いが何かを体感する。</p>	
日英語比較 I	<p>日本語の特徴をより深く理解するためには、他言語と比較することが有効である。この授業では、日英両言語の具体的な言語表現の違いを見ながら、そのような違いが生じる要因を両言語の特徴に即して考える。前半は意味論の理論と方法を理解し、その応用として辞書における意味記述に注目した辞書編纂の現状を知る。後半は動詞の意味的特徴を理解した上で、日本語と英語の文構造の比較を行う。英語を学習の目標言語としてではなく言語学研究の対象として理解する。使われる用語を理解し、それらの用語を使って言葉のしくみを説明できるようにする。日英語の共通点と相違点を通して両言語を体系的に理解する。</p>	
日英語比較 II	<p>日本語概論、日英語比較 I などの言語学関連科目での学修を基盤に、言語使用に伴う言語現象とその要因に焦点を当てる。言語使用の場面や談話の参与者（話し手、聞き手）、人間関係、文化的背景などの言語への現れを、日英語の具体的な言語表現から比較して考える。英語を学習の目標言語としてではなく言語学研究の対象として理解する。語用論の用語を理解し、用語を使って言葉のしくみを説明できるようにする。日英語の共通点と相違点を通して両言語を体系的に理解する。</p>	
社会と言語	<p>社会との関わりの中で言葉がどのように使われているかに注目する授業である。この観点に立つ様々な理論や考え方を理解することを目標とする。言葉の使われ方の多様性、言葉の地域差、二言語使用・多言語使用、言語変異と言語変化、言語習得と異文化接触、言語と文化、発話行為と丁寧さ、言語政策と言語計画、非言語伝達など、いわゆる社会言語学で取り扱うテーマを全般的に概観しつつ、日本語社会を対象とした、近年の言語変化を取り上げる。グループワークでの意見交換を通して今の日本語の使われ方について考察していく。</p>	
日本語教育法 I	<p>日本語教育における効果的な教え方を多側面から考察するとともに日本語を母語としない相手とコミュニケーションをとるためのスキルを身につける授業である。日本語教師の役割や日本語を教えるということはどういうことなのか、学習意欲を伸ばす活動はどのような活動なのかなどを考える。そして、初級学習者を対象にした、発音、会話、文字、読解の指導法及び評価法、使用する教材や教具についての長短を把握し、効果的な使用方法について学ぶ。日本語教育ボランティアや日本語教育インターンシップに参加するための基礎的な知識とスキルを身につける。</p>	
日本語教育法 II	<p>日本語教育における効果的な教え方を多側面から考察するとともに日本語を母語としない相手とコミュニケーションをとるためのスキルを身につける。第二言語習得や心理学的な観点から言語を学ぶということのメカニズムを理解しつつ、中上級学習者を対象にした、文法、会話、聴解、読解、情報収集、作文、学習ストラテジーなどの指導法及び評価法を学ぶ。日本語教育ボランティアや日本語教育インターンシップに参加するための基礎的な知識とスキルを身につける。</p>	

言語学	<p>言語とは何か、人は言語をどのように見ているか、人と言葉の関わりを体系的に学び、言語学がどのような方法で言語を説明しようとし、発展してきたかを学ぶための授業である。特に語と文に見られる仕組みに注目しながら、言語の構造や機能、言語の持つ特徴を捉えるための基礎知識を付け、言語の普遍性と多様性について理解し、母語や様々な言語の特徴を対比してその違いや共通点について考える。さまざまな身近な例を紹介し、言語に対する客観的な視点を養うことにより言葉について考える態度を身につけるのが目標である。</p>	
応用言語学	<p>言語行動をマクロ的に捉え、日本語教育へ応用する力、日本語教育を実践する力を身に付け、専門性の強い日本語教師を目指す人のために総合的な実力を養うことを目指す。標準語・方言、言語政策、バイリンガル、多言語主義、語用論、外国語教育、言語と文化、異文化コミュニケーション、談話分析、ストラテジー研究、メディアのことば、言語障害、コンピューターによる情報処理など、応用言語学で扱われるテーマに幅広く触れる。文化人類学的な観点から日本事情教育に応用できる力も身に付ける。</p>	
日本語教育演習 I	<p>日本語教師としての基本的な知識やスキルを獲得し、初級学習者に対する日本語指導ができる実践力を身につける。日本語教育の授業とはどのようなものかイメージを持つとともに外国人学習者に対して授業を行うことの困難な点、重要なことが何かを体験的に知る。日本語教授法の理論、実際の教育活動に必要な知識や概念、技術などを学ぶ。日本語学習者の授業や発表の見学及び模擬授業を通じて「日本語を教える」とはどういうことかを実践を通じて学ぶ。日本国内の教育機関、地域日本語教室、海外の日本語教育機関などの実際の教育現場の実情についても概観する。</p>	
日本語教育演習 II	<p>日本語教師としての基本的な知識やスキルを獲得し、中上級の日本語学習者を対象にした教案と教材を作成し教室内の模擬授業を行ない、学習内容の把握及び授業計画の立案ができるようにすることが目標である。外国人学習者に対して授業を行うことの困難な点、重要なことが何かを体感的に学びながらグループ活動を通して仲間と一緒により良い日本語授業を作り上げる。日本語教授法の理論、実際の教育活動に必要な知識や概念、技術などを学ぶ。日本語学習者の授業や発表の見学及び模擬授業を通じて「日本語を教える」とはどういうことかを実践を通じて体得する。</p>	
学校教育インターンシップ	<p>大学において、インターンシップ先の実習校について理解し、必要な業務内容を理解し、実際に業務に耐えうる知識をつけて、アメリカにおける公立学校で小学生、または中学生を対象とした日本語、英語の授業実践補助を行う。キャンパス内での授業における事前指導、ESCを活用した事前学習、現地での事前指導、教員補助実習、帰国後の事後指導の各内容が本授業に含まれる。出発前のキャンパスにおけるオリエンテーション（3日間実施）予定、現地でアメリカの小学校におけるインターンシップ（14日間実施）予定。</p>	
国内日本語教育インターンシップ	<p>国内の日本語教育現場に「日本語教育インターン」として赴き、日本語教員がどのように授業運営を行い、学習者を支援しているかを学ぶ。またそのために実習前準備を行い、授業計画・教室運営をすることで実践力を身に付け、評価方法等における教師の役割を理解する。インターンシップは、オリエンテーション、授業見学、授業準備、模擬授業、教壇実習、全体の振り返りと構成され、2週間または60時間程度のインターンシップ期間と最低2コマ分以上（1コマ45分）の教壇実習を条件とする。終了後は、報告書を提出し、最後にフィードバックを行う。</p>	

海外日本語教育インター ンシップA	<p>国外の日本語教育現場に「日本語教育インターン」として渡航し、海外の日本語教員がどのように授業運営を行い、学習者を支援しているかを学ぶ。またそのために実習前準備を行い、授業計画・教室運営をすることで実戦力を身に付け、評価方法等における教師の役割を理解する。インターンシップ概要と手続、インターンシップ先の紹介をはじめ、現地滞在のための諸準備が必要となる。インターンシップはオリエンテーション、授業見学、授業準備、模擬授業、教壇実習、全体の振り返りと構成され、現地における2週間または60時間程度のインターンシップと最低2コマ(1コマ45分)以上の教壇実習を条件とする。終了後は、報告書を提出し、最後にフィードバックを行う。インターンシップ先機関は大学が斡旋する国の教育機関を基本とするが、学生が独自で開拓した機関でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。</p>	
海外日本語教育インター ンシップB	<p>国外の日本語教育現場に「日本語教育インターン」として渡航し、日本語教員がどのように授業運営を行い、学習者を支援しているかを学ぶ。またそのために実習前準備を行い、授業計画・教室運営をすることで実戦力を身に付け、評価方法等における教師の役割を理解する。インターンシップ概要と手続、インターンシップ先の紹介をはじめ、現地滞在のための諸準備が必要となる。インターンシップはオリエンテーション、授業見学、授業準備、模擬授業、教壇実習、全体の振り返りと構成され、現地における4週間または120時間程度のインターンシップと最低4コマ(1コマ45分)以上の教壇実習を条件とする。終了後は、報告書を提出し、最後にフィードバックを行う。インターンシップ先機関は大学が斡旋する国の教育機関を基本とするが、学生が独自で開拓した機関でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。</p>	
日本語教育ボランティア A	<p>国内外の日本語教育の実態と支援状況を理解することにより、日本語教師としての意識を高めることが目標である。具体的には地域の日本語教室などで外国にルーツを持つ子ども、技能実習生や研修生及びその配偶者、留学生など様々な立場の日本語学習者の支援を実際に行ったり、日本語教師や関係者の活動に参加したり、もしくは海外の日本語教育現場にてこれらの活動に参加してその実態を理解する。4年前期までの合計活動60時間以上とする。担当者の事前指導の下で活動計画を立て、活動に必要な準備を行い、活動期間中は具体的な活動内容を日誌として記録する。全活動の総合的なポートフォリオやリフレクションの提出が義務付けられる。</p>	
日本語教育ボランティア B	<p>国内外の日本語教育の実態と支援状況を理解することにより、日本語教師としての意識を高めることが目標である。具体的には地域の日本語教室などで外国にルーツを持つ子ども、技能実習生や研修生及びその配偶者、留学生など様々な立場の日本語学習者の支援を実際に行ったり、日本語教師や関係者の活動に参加したり、もしくは海外の日本語教育現場にてこれらの活動に参加してその実態を理解する。4年前期までの合計活動120時間以上とする。担当者の事前指導の下で活動計画を立て、活動に必要な準備を行い、活動期間中は具体的な活動内容を日誌として記録する。全活動の総合的なポートフォリオやリフレクションの提出が義務付けられる。</p>	
韓国語表現文法	<p>韓国語初級学習者を対象に初級内容の復習を行いながらより正確な韓国語を駆使できるように文型中心の文法学習を進めていく。中上級の文型を学習することでより高度で複雑な内容の文章を理解し算出できることを目指す。さらに、間違いやすい文法を取り上げて学習することで韓国語らしい表現が運用できるようにしていく。韓国語の文法を体系的に整理することを通じて韓国語能力検定試験に備える力を付けることも狙いの一つである。授業では表現文法の用法を解説した後、多様なパターンの応用練習問題を繰り返し解きながら表現文法の応用力を身に付ける。</p>	

韓国語リスニング&スピーキング	言語能力の4技能のうち、リスニングとスピーキングのスキルに重点を置き、それまでに学んだ基本文法や語彙が有機的に機能できるようにトレーニングを重ねていく。また、いろいろな場面で使用できる多様な文型、表現、語彙の習得にも力を入れる。ピア学習やグループ活動、ロールプレイ、タスク学習、ICTを活用したアクティブラーニングを取り入れてテレビドラマや映画、ラジオ、音楽の他、生のデータを学習の素材として用いることで楽しみながらインプットとアウトプットがバランスよく身に付くようにする。	
韓国語リーディング&ライティング	言語能力の4技能のうち、リーディングとライティングのスキルに重点を置き、それまでに学んだ基本文法や語彙が有機的に使え、より高度な文章の理解力と作文力が身に付くようにトレーニングを重ねていく。また、いろいろな場面で使用できる多様な文型、表現、語彙の習得にも力を入れる。ピア学習やグループ活動、ロールプレイ、タスク学習、ICTを活用したアクティブラーニングを取り入れて、新聞や雑誌の記事、ネット記事、台詞や歌詞、文学作品、学習者自らが作成した文章などを学習の素材として用いることで、幅広いテーマと情報に触れることができ、楽しみながらインプットとアウトプットがバランスよく身に付くようにする。	
韓国語コミュニケーション	より高度なコミュニケーションスキルの向上を目指す。学校生活、プライベート、公共の場など、いろいろな場面に相応しいコミュニケーション方法をはじめ、専門的な話題においても流れを理解し要点を把握すること、人間関係を円滑にするための言語ストラテジーを理解し、非言語的な要素を含む会話のスキルを身につけることを目標とする。学習テーマについてグループで話し合い、内容を発表するなど、実際のコミュニケーションの場面を多くとることにより高いコミュニケーション能力を養う。	
韓国語プレゼンテーション	韓国語による実践的なプレゼンテーション能力の獲得のために「伝える力」と「聞く力」を重点的に磨いていく。聞き手に伝わりやすい内容の構成や発声、聞き手の属性とプレゼンテーションの目的に応じた表現や態度を身に付けていく。そして、発信者としてだけでなく、発信される情報を正確に聞き取って質疑・応答に生かせる聞き手としての能力をも養っていく。プレゼンテーションのテーマは、身近な経験談から時事的なニュースのリサーチ、調査・考察した内容から導かれた結論の主張、論理的にオーディエンスを説得するためのディベート議論まで段階を踏んで訓練していく。	
韓国語映像翻訳	映像翻訳の理論的な知識をはじめ、実務的な能力を身につけることを目標とする。韓国語のみならず、日本語の語彙力と表現力を高め、多彩なテーマに関する実際のインタビューや演説、ニュース番組、ドラマ、映画、ソーシャルメディアの映像など、いろいろなレベルとジャンルの素材を利用して映像翻訳に必要なスキルを身に付ける。ペアやチームで関心のある映像を選択し、グループで協働して韓国語の絵本やコントの台詞の日本語翻訳に取り組み、翻訳チェックを行う実践を通してスキル高める。授業のまとめとして映像翻訳作品を発表し合う。	
ビジネス韓国語	専門性を持つビジネスレベルの韓国語運用力を身に付け、即戦力を高めることを目標とする授業である。語学力のみならず、韓国の企業文化についても学習する。そして、社内の日常会話や社外でのコミュニケーション、顧客に対する言葉遣いに至るまで様々な場面に対応できるコミュニケーションスキルを習得する。同時にe-mail、履歴書、自己紹介文などの書き方からビジネス用語の使い方、ワード文書、公文書、契約文・取引書・見積書などの業務関連書式や案内文、パワーポイントを使ったプレゼンテーション資料作成など、ビジネスに必要な文書作成の練習も行う。	
韓国事情	まずは、韓国の基本的なプロフィールを学んだ上で、韓国の教育制度、社会制度、社会構造、家族文化、衣食住文化、主要都市と各地方の産業、文化遺産、日常生活などを網羅的に学ぶ。韓国関連の時事ニュースを理解することができるようになることを目標とする。また、韓国留学や研修及びインターンシップなどを控えている人は、現地での生活に役立つ情報が習得できる授業となる。韓国人の生活様式を熟知することは韓国の社会と文化を深く理解していくための第一歩となる。韓国統計庁の基礎データや最新のニュースを引用しながら今の韓国事情を主体的に調べていく手法を取り入れる。	

<p>韓国サブカルチャー</p>	<p>韓国ドラマや映画、K-popやコスメ、K-food、ファッションなど、いわゆる「韓流」に着目し、異文化交流や比較文化論の観点からその意味や本質を読み解く授業である。古くから日本と文化的に影響し合ってきた韓国のサブカルチャー、ポップカルチャーを知ることは歴史・政治的な日韓関係と異なる一面を知ることにつながる。韓流とは何か、韓流文化の人気と魅力、コンテンツ産業としての韓流の現状、日本における「韓流」と日本社会への影響、韓国における「日流」との関係などを取り上げつつ日韓関係の展望について考える。</p>	
<p>韓国現代文学</p>	<p>韓国の現代文学を理解するためにまずは近現代文学史の概要を学び、具体的な作品を通じて韓国現代文学の特徴及び時代的背景や情緒、社会問題への理解を深めることを目指す授業である。開花期～植民地時代の文学、朝鮮戦争～現在の文学に分けて特徴を概観し、小説、随筆、詩など多彩なジャンルの作品に対する鑑賞力を養うとともに、激動の時代に翻弄されながらも生き抜いた韓国人の生き様について理解を深めることができる。鑑賞力涵養の一環として映画化された文学作品を取り上げて作品性の比較などをディスカッションする時間を設ける。</p>	
<p>日韓対照言語学</p>	<p>日本語と韓国語それぞれが言語としてどのような特徴があり、世界の言語のなかでどのように位置づけられているかを理解した上で、日本人母語話者の韓国語学習上の誤用及び韓国人母語話者の日本語学習上の誤用の事例を取り上げながら両言語の音声面や構文面での類似性と相違性を浮き彫りにしていく。また、言語行動面、言語生活面における両言語の違いについて、いろいろな場面でのデータを用いて考察していく。そうすることで「言語」と「文化」が深く結びついていることを理解することになる。</p>	
<p>韓国の歴史</p>	<p>古代から現代までの韓国の歴史を通史的に見ていく授業である。特に、東アジアにおける韓国と日本、世界における韓国と日本という視点から日韓関係の歴史にまで視点を広げて学んでいく。それを通して国際情勢や日本との関係など世界史の中で韓国史を捉える必要性と意義を理解することになり、日本と韓国を取り巻く環境及び両国が抱えている諸問題の本質を理解することができる。個別の歴史の出来事の因果関係を理解することで知られざる日韓関係を知ることにもなる。古朝鮮、古代三國、新羅と渤海、後三国と高麗、朝鮮、朝鮮末期と大韓帝国、植民地時代と韓国戦争、民主化運動と軍事独裁時代、南北関係と対北朝鮮政策、在日コリアンの歴史などを中心に取り上げていく。</p>	
<p>韓国伝統文化と思想</p>	<p>韓国の伝統文化を通して韓国固有の思想を学び、シャーマニズムや仏教思想、儒教思想などの特徴を理解するための授業である。またそれらが韓国人の風俗習慣や価値観の形成にどのようにつながっているのか考察を深めるための授業でもある。授業では、年中行事や歳時風習をはじめ、韓国の神話に見る固有思想及び土俗信仰、家族関係に見る儒教の影響、死後の世界と儒教・仏教との関係、伝統料理を中心とした食文化、恋愛・結婚に関わる価値観、住居文化に見る生活習慣、伝統作法、歴史遺産に見る宗教観などについて取り上げながら理解を深める。</p>	
<p>日韓文化比較</p>	<p>多文化主義の視点から日韓文化及び文化の多様性を理解し、自文化を客観的に見つめることを目標とする。日韓文化のみを授業の中で扱うというより、文化そのものへのアプローチや文化について広く考えていく中で日韓の文化を捉えていくことにする。また、卒業論文を意識したアカデミック・ライティングもこの授業の目標のひとつにある。手法としては、自らが文化事象について観察し分析・比較したり、他の学生と協働したり、ITなどを活用して収集した情報を発信したりしながら主体的に進めていく。</p>	
<p>韓国自由研究</p>	<p>それまでに学んできた韓国語や韓国社会文化の知識と理解を踏まえて自由にテーマを選定し自主的に調査を行い、自らの視点で研究して結論を導く授業である。テーマや調査方法、分析手法の指定はない。各々の気になる韓国の事柄について文献調査、観察調査、インタビュー調査、アンケート調査、フィールド調査など、様々なリサーチ方法などから自由に組み合わせ情報を収集し自ら答えを導き出す。卒業論文を意識した研究ノートの作成も目標のひとつである。授業の最後にはリサーチペーパーの提出する。研究報告会を実施して受講生同士でディスカッションを行う。</p>	

韓国インターンシップ	<p>韓国で仕事を体験することで視野を広げたい、キャリアアップにつなげたい、実際の韓国のビジネス現場で使われている言葉を知ることで語学力をアップしたい人のための授業である。原則として夏季・春季休み期間を利用し、韓国の一般企業、行政機関、教育機関、各種団体等の職場体験を通して韓国の企業の仕組みや仕事の流れ、情報システムの活用や職場における人間関係などの理解を深め、将来の職業選択やキャリアプランに役立てることが目的である。研修期間は2週間以上または60時間以上とする。実習先機関は大学が斡旋する企業または団体か、学生が独自で開拓した企業または団体でも可とする。ただし、後者の場合は大学の基準に沿った機関であるか審査を行う。インターンシップ日誌の作成と終了後の発表会が義務付けられる。</p>	
韓国留学準備講座A	<p>本授業は、後期からスタートする留学のための準備講座である。韓国の長期留学を控えた学生がより充実した留学生活を送るための知識と心構えを養うことを目的とする授業である。現地での修学に必要な高度のアカデミックな韓国語力を養うと同時に、留学のための諸準備、例えば、留学先での目標設定及び修学計画などをレポートにして作成したり、留学準備の書類作成や保護者説明会、先輩による留学体験発表会も開催する。情報収集・分析力を養うために留学生活に役立つ情報を検索し、その中から自分に必要なものを取捨選択する必要がある。</p>	
韓国留学準備講座B	<p>本授業は、前期からスタートする留学のための準備講座である。韓国の長期留学を控えた学生がより充実した留学生活を送るための知識と心構えを養うことを目的とする授業である。現地での修学に必要な高度のアカデミックな韓国語力を養うと同時に、留学のための諸準備、例えば、留学先での目標設定及び修学計画などをレポートにして作成したり、留学準備の書類作成や保護者説明会、先輩による留学体験発表会も開催する。情報収集・分析力を養うために留学生活に役立つ情報を検索し、その中から自分に必要なものを取捨選択する必要がある。後期開講科目である。</p>	
検定韓国語初級A	<p>本授業は、後期に実施する韓国語能力試験TOPIK I（初級）の合格を目指して約2000語程度の語彙を用いて身近な話題に関して表現・理解できるようにする。過去問題を分析し、語彙と文法の主要項目の正確な使い方を確認し練習を重ねる。事前に出される課題にしっかり取り組む必要がある。授業では練習問題の答え合わせと解説を中心に進める。授業の最初には単語の確認テストを行う。練習問題をふんだんに使用することでTOPIK問題のパターンに慣れるようにする。TOPIK Iの受験を必須条件とする。</p>	
検定韓国語中級A	<p>本授業は、後期に実施する韓国語能力試験TOPIK II（中級）の合格を目指して約2000～5700語の語彙を用いて日常生活で困ることなく、社会的・抽象的な素材について表現できるようにする。過去問題を分析し、表現と文法の主要項目の正確な使い方を確認し練習を重ねる。事前に出される課題にしっかり取り組む必要がある。授業では練習問題の答え合わせと解説を中心に進める。授業の最初には単語の確認テストを行う。とりわけ作文問題では、200～300字の作文を中心に練習を重ね、パターンに慣れるようにする。TOPIK IIの受験を必須条件とする。前期開講授業である。</p>	
検定韓国語上級A	<p>本授業は、後期に実施する韓国語能力試験TOPIK II（上級）の合格を目指して約6000語以上の語彙を用いて政治・経済・社会・文化の全般にわたって正確で流暢に韓国語が駆使できるようにする。過去問題を分析し、表現文型の主要項目の正確な使い方と韓国固有のことわざや慣用語を確認し練習を重ねる。事前に出される課題にしっかり取り組む必要がある。授業では練習問題の答え合わせと解説を中心に進める。授業の最初には単語の確認テストを行う。とりわけ作文問題では、600～700字の小論文を中心に練習を重ね、パターンに慣れるようにする。TOPIK IIの受験を必須条件とする。前期開講授業である。</p>	
検定韓国語初級B	<p>本授業は、前期に実施する韓国語能力試験TOPIK I（初級）の合格を目指して約2000語程度の語彙を用いて身近な話題に関して表現・理解できるようにする。過去問題を分析し、語彙と文法の主要項目の正確な使い方を確認し練習を重ねる。事前に出される課題にしっかり取り組む必要がある。授業では練習問題の答え合わせと解説を中心に進める。授業の最初には単語の確認テストを行う。練習問題をふんだんに使用することでTOPIK問題のパターンに慣れるようにする。TOPIK Iの受験を必須条件とする。</p>	

検定韓国語中級B	<p>本授業は、前期に実施する韓国語能力試験TOPIK II（中級）の合格を目指して約2000～5700語の語彙を用いて日常生活で困ることなく、社会的・抽象的な素材について表現できるようにする。過去問題を分析し、表現と文法の主要項目の正確な使い方を確認し練習を重ねる。事前に出される課題にしっかり取り組む必要がある。授業では練習問題の答え合わせと解説を中心に進める。授業の最初には単語の確認テストを行う。とりわけ作文問題では、200～300字の作文を中心に練習を重ね、パターンに慣れるようにする。TOPIK IIの受験を必須条件とする。</p>	
検定韓国語上級B	<p>本授業は、前期に実施する韓国語能力試験TOPIK II（上級）の合格を目指して約6000語以上の語彙を用いて政治・経済・社会・文化の全般にわたって正確で流暢に韓国語が駆使できるようにする。過去問題を分析し、表現文型の主要項目の正確な使い方と韓国固有のことわざや慣用句を確認し練習を重ねる。事前に出される課題にしっかり取り組む必要がある。授業では練習問題の答え合わせと解説を中心に進める。授業の最初には単語の確認テストを行う。とりわけ作文問題では、600～700字の小論文を中心に練習を重ね、パターンに慣れるようにする。TOPIK IIの受験を必須条件とする。</p>	
観光学概論	<p>我が国の観光の現状を具体的事例を参照しながら検討を行う。近年、我が国の観光を取り巻く環境が大きく変化していく中で、観光の基本的知識を学び、今後の方向性を考える場とする。少子高齢社会の中、我が国の重要な成長戦略の柱の一つになった「観光」について、観光資源・観光産業・観光政策の観点から、その歴史的背景や基礎を学び、今後の観光の在り方について考える。講義が中心ですが、画像・映像などを多用することにより理解しやすい内容とし、グループ討議も取り入れる。授業ごとにレポートを提出し自身の理解度を把握していく。</p>	
観光と文化	<p>人はなぜ観光するか。その心はどうして生まれ、何を求めているのか。観光客を惹きつける場所・モノ・コトにはどんな魅力があり、それはいかにして創られるのか。こうした観光客の心や観光対象の魅力の問題を、文化的側面から検証していく。また、観光客は移動の中で様々な人やモノと出会うが、そこではどんなことが起きているのか。観光客や観光地の住民は、出会いの中で何を感しているのか。こうした観光で生じる出会いについても検証していく。</p>	
観光ホスピタリティ	<p>我が国の観光業におけるホスピタリティの現状を具体的事例を参照しながら検討を行う。ホスピタリティ産業の代表である宿泊業、交通運輸業、旅行業、テーマパークなどの観光産業で、どのようにホスピタリティ（おもてなしの心）が発揮され、人に喜びや感動を与えているのかについて学修する。特定の企業をピックアップし、そのホスピタリティの取り組みを学修し、今後の人生に生かせるよう考え方を習得していく。課題によってはグループでディスカッションを行う。</p>	
観光政策論	<p>我が国の行政による観光政策の変遷、及び社会的効果等について、具体的事例を参照しながら検討していく。我が国の重要な成長戦略の柱の一つになった「観光」について、コロナ後を見据えた近年の観光政策における大きな課題である「訪日観光（インバウンド）」、「観光まちづくり」および「日本人の海外旅行」の具体的取り組み事例を紹介し、国や地域の基本政策を学び、その社会的背景や政策内容を検討し、今後の我が国の観光政策の方向性を模索する。それぞれのテーマ毎にレポートをまとめ発表していく。</p>	
観光インターンシップ	<p>観光に関する基礎知識を授業で学んだうえで、実際にホテル、旅行会社、空港関連施設や観光振興団体（観光協会）などでインターンシップ実務研修を行う。約2週間（60時間以上）の研修は基本的には夏季・春季の長期休暇期間に実施するが、実施機関によっては授業期間内になる場合もある。実際の現場での研修では、その業界の仕事内容（事務・営業・企画など）を実体験することで就職後の業務内容を知ることが可能である。また、先輩社員との交流によって説明会や資料だけでは分からない会社の雰囲気などを確認することも可能である。</p>	

<p>観光と地理</p>	<p>地理は国内・海外を問わず、観光関連学修の基本的な知識である。地理はその地域の自然・気候・地形などを学ぶ自然地理と歴史・文化・産業などを学ぶ人文地理があり、この授業では国内・海外の特定の地域を特定のテーマに沿って観光的観点に立って総合的に学ぶ。具体的には世界遺産、日本遺産、奥の細道などの著名な紀行文、ナショナルジオグラフィックなどの世界的な雑誌などから題材を取り上げて、その地域における観光的な社会貢献について学ぶ。</p>	
<p>エアライン講座</p>	<p>将来、エアライン産業で勤務することを想定した夏季または春季休暇中に開催する集中講義・演習科目である。キャビンクルー、グラウンドスタッフ、空港関連施設等での勤務を目指す学生に向けて、その業界において求められる業務知識、ホスピタリティ、サービスなどを具体的に指導する。これまで多くのエアライン等への合格実績を誇る専門学校スタッフによる指導は将来の夢をより具体的なカタチにする。本科目での学修はエアライン系企業だけでなく一般企業対策にも通じる内容となっており、今後の就職活動にも有効である。</p>	
<p>旅行産業論</p>	<p>旅行産業で働くことを目指す人材の育成を目標として、新型コロナウイルスによって深刻な打撃を受けている旅行産業の現状と課題、環境変化への対応、将来への展望などを学修する。観光産業は「21世紀の基幹産業」と言われているが、ここ数年は新型コロナウイルスによって壊滅的な打撃を受けている。日本における旅行産業、特にインバウンドは今後の回復成長が期待されている。旅行市場の現状、旅行会社の経営、営業販売、商品造成、関連ビジネスなどの実例・実態を踏まえ、旅行産業の課題と展望を検証していく。旅行業の現状、経営及びマーケット特性なども概観し、そのうえで、法人旅行、個人旅行、グローバル事業について講義し、あわせて旅行産業の各分野に関する課題整理と将来展望を考察する。</p>	
<p>宿泊産業論</p>	<p>ホテル・旅館運営には、お客様はもちろん、投資家、運営者、オーナー、地域コミュニティ、DMOなど、様々な立場のステークホルダーが存在している。お客様へのサービスを主軸としているが、そのマネジメントに関する研究を進めてゆく上で、業界の知識や理論を身に付けると共に、実際にそれを応用的に活用できることを目的とする。すなわち、ホテルや旅館とは何なのか、あるいは日本や海外でのホテルの歴史と現状などについても学び、宿泊産業におけるマネジメントの概略について理解することを目指す。ホテル運営には様々な知識・知恵が必要である。例えて言えば、ホテル運営×アート（宿泊だけではなく文化的付加価値の提供）、ホテル運営×デザイン（建造物としてのデザイン性や居住性、歴史的価値の創造）、ホテル運営×環境問題（お客様と共に創り上げるSDGsの取り組み）等、様々な新しい切り口がホテル運営には必要になってくる。実際に宿泊産業に従事する人々から実際の現場の声を伺っていく。</p>	
<p>交通産業論</p>	<p>交通輸送機関（航空を除く）は、観光旅客者のみならず、地域の住民にとっても重要である。しかしながら、新型コロナウイルスによって業界全体が深刻な打撃を受け、その運営は厳しい環境に立たされている。では、このような環境の中で、環境の回復を待つだけでなく、どのようにしたら観光客にも魅力的で利便性の高い交通機関が実現できるのか。どのようにすれば、効率的で持続可能な交通運営が実現するのか。交通産業に関する基礎知識を身に付けるとともに、社会のさまざまな事柄を科学的にとらえ、判断するためのスキルを身に付けていく。</p>	
<p>観光マーケティング</p>	<p>マーケティングの観点から観光産業における具体的な事例を参照しながら学修していく。観光産業のみならず、現代社会においてビジネス全般で活用できるマーケティングの基本を学びながら、幅広い知識を習得したうえで、観光産業におけるマーケティングを具体的に学習する。観光産業は、交通、宿泊、飲食、物販、エンターテインメント、トラベルエージェント、ツアーオペレーターなど多岐にわたるが、この中からいくつかの業態のマーケティング戦略について、ケーススタディを通じて学ぶことで、将来的に実務で活用できる理論と実践的な知識を身につけることを目指す。授業では、グループディスカッションを行い、その内容を発表する。授業ごとにレポートを提出し理解度を高めていく。</p>	

観光とソーシャルメディア	<p>観光とソーシャルメディアの現実や具体例を検証することにより、観光と社会との関係性を理解していく。かつての情報発信は、新聞やテレビなどのマスメディアなどであったが、マスメディアでは情報の発信者と受信者の役割が明確で情報の流れは一方である。反対にソーシャルメディアの形態には、SNS、電子掲示板、ブログ、投稿サイト、情報共有サイトなど様々なものがある。昨今のソーシャルメディアの普及により、さまざまな情報表現（発信）が個人でも容易になっている。様々な地域における観光経営を課題とし、観光地のブランド化を図ることが一つの手段であることに考えを及ぼした場合、そこには経営視点が必要であり、さらに地域の情報を複眼的視点で考察することが必要となる。よって、地域経営に着眼して「観光」におけるソーシャルメディアを活用した情報表現の必要性について、観光地の事例も取り上げながら、多角的に学修する。</p>	
祭と文化	<p>長い歴史の中で連続と受け継がれてきた日本の伝統文化である「祭」について取り上げ、衣服や食・しきたりなど、現代に脈々と続いている過去からの伝承や、宗教感、自然などに対する畏敬の念、などについて考察する。また、宗教とは無縁の「祭」、地域おこしのための市民祭り、雪まつりや桜まつりなど季節に由来するもの、時代まつりのように歴史を祝うもの、サンバカーニバルや春節に代表される外国由来のお祭りなど、これらも文化を尊重し、季節に感謝し、人々を繋ぐため、日本に欠かせないものとなっている。これらの取り組みについても、独自性や地域性について学修し調査研究を行う。</p>	
観光まちづくり論	<p>まちづくりを観光の観点から見つめ、地域を活性化するための理論と地域創生の先進事例を具体的に学ぶ。超高齢社会に直面する我が国において、多くの地域が将来をデザインするために様々な取り組みを始めている。観光によるまちづくりは地域における持続可能な社会を作り上げるための一つの方策として捉えられている。観光は裾野が広い産業で、観光資源の多くが普段の生活に密着したものである。その生活資源を観光の観点に立って活用するための工夫・知恵を学び、地域住民を中心としたまちづくり活動を学ぶ。</p>	
地域ブランディング論	<p>多くの地域が持続可能な社会を目指して活性化のために地域のブランディング化を模索している。ブランディングとは何かの基本を学び、マーケティングの理論を基に地域資源を活用して産業や社会生活の活性化を目指すための理論を学ぶ。地域全体のイメージづくりの為にブランド力の強化は外せない。「地域との交流」・「ならでは個性」・「感動体験」をキーワードとして、如何にしてブランド力を高め、来訪者の心を捉えるかを成功事例を基に研究する。まとめとして特定の地域を学び、課題を見つけ、活性化のためのブランディング戦略を策定を試みる。</p>	
観光と社会	<p>先ず、地域社会をその歴史的、文化的、社会的背景の観点から学ぶ。それを知ることによって、今後においてどのような地域社会を目指していくのかを検討する。都市と地方ではその環境、背景が大きく異なる。また各地域においてもそれぞれの歴史的背景は異なり、それぞれが固有の課題を有する。今、求められている持続可能な社会の具体案を観光の観点から検証し模索する。地域社会における観光要素の重要性を明確化してその方向性を探る。SDGsの観点でサステナブルツーリズムについて学ぶ。</p>	
地域フィールドワーク	<p>本授業は先ずは地元（有松・桶狭間地区など）において全体でフィールドワークの基本である現状の把握、課題の見つけ方、課題の解決方法などを学ぶ。その後は受講生が各自でフィールドワーク先、テーマを決めて課題を発見し、その解決策を探ることに挑戦する。基本的には15回の授業のうち6回程度は授業内でグループ又は各自で対象地域の現状を把握し課題を発見する。6回程度は現地フィールドへ向かい調査することにより解決策を見つけ出す。そのためには地元の方の協力が必要であり、その交渉過程において実社会での貴重な体験を積むことで主体的な行動と論理的な思考力を養うことができる。最後に3回程度で各自の活動を発表し活動の総まとめとする。</p>	

ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	<p>本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、「国際・情報専攻」「日本語教育専攻」「韓国専攻」「観光専攻」のそれぞれの専門分野において、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる基礎的な能力を涵養するための場として位置付ける。3年次の前期（Ⅰ）においては以下の取り組みを各教員の指示のもとに行う。</p> <p>(1) 自分が専攻する分野の何を研究したいのか、そのために必要な基礎理解は何か、を確認する。</p> <p>(2) 自分が専攻する分野のニュースをピックアップして、自分が気になる研究トピックにはどのようなものがあるのか、概観する。</p> <p>(3) プロジェクトや研究をどのように進めるか、ということ意識しながら「自分の視点」を作り上げていく。</p> <p>(4) 毎回の授業内容や活動内容をゼミノートにまとめて、情報の蓄積と振り返りに活用する。</p> <p>(5) 専攻内容によって情報収集のために現地調査を実施することがある。</p>	
	専門ゼミナールⅡ	<p>本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、「国際・情報専攻」「日本語教育専攻」「韓国専攻」「観光専攻」のそれぞれの専門分野において、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる、基礎的な能力を涵養するための場として、3年次後期（Ⅱ）では前期（Ⅰ）に続き位置付ける。</p> <p>(1) 各専門分野の中における、自分の研究テーマについて理解を深める。</p> <p>(2) 興味ある本やニュースをピックアップして自分の気になるトピックを決めていく。</p> <p>(3) 各専門分野に関する文献を1冊以上読んで「研究テーマ」と「研究の方法」を確認する。</p> <p>(4) 授業内容や活動内容を、ゼミノートにまとめて情報の蓄積と振り返りに活用する。</p> <p>(5) 専攻内容により、情報収集のために現地調査を実施することがある。</p> <p>(6) 専攻内容により、社会的な意識を高めるための活動を取り入れることがある。</p>	
	専門ゼミナールⅢ	<p>本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、「国際・情報専攻」「日本語教育専攻」「韓国専攻」「観光専攻」のそれぞれの専門分野において、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を涵養するために行われる。4年次前期（Ⅲ）では3年次に取り組んだⅠ～Ⅱの学修内容に加えて、以下の内容の学修が各教員の指示によって進められる。</p> <p>(1) 卒業論文のトピックについて深く調べていく。</p> <p>(2) 参考文献・論文を読んで自分の視点を確立していく。</p> <p>(3) 調べた情報について他社と共有しディスカッションを行う。</p> <p>(4) 専攻内容により情報収集のために現地調査を実施することがある。</p> <p>(5) 専攻内容により、社会的な意識を高めるための活動を取り入れることがある。</p>	
	専門ゼミナールⅣ	<p>本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、「国際・情報専攻」「日本語教育専攻」「韓国専攻」「観光専攻」のそれぞれの専門分野において、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を涵養するために行われる。4年次後期（Ⅳ）では、4年次前期までに取り組んだⅠ～Ⅲの学修内容に加えて、以下の内容の学修が4年間の総まとめとして、各教員の指示によって進められる。</p> <p>(1) 蓄積したデータ、培ってきた見解を生かして卒業論文執筆を開始する。</p> <p>(2) 専攻内容により情報収集のために現地調査を実施することがある。</p> <p>(3) 専攻内容により、社会的な意識を高めるための活動を取り入れることがある。</p>	
	卒業研究	<p>学部の全てのディプロマポリシーに沿って学んだ内容、およびゼミでの専門研究をまとめる場として、本研究を位置付ける。最終的にまとめる方法（卒業研究作品）は「プロジェクト実施とオピニオンエッセーの制作」または「卒業論文」とし、指定された期日までに提出することとする。前記の卒業研究作品には4年間の学びを全体的に振り返る「ホリスティックリフレクション」を含むこととし、最終発表においては英語と日本語の両言語を用いてプレゼンテーションを行うものとする。</p>	

教職入門	<p>本授業では、授業担当者の中学校及び高等学校教諭としての経験も踏まえた上で、まず教師の役割全般を概観する。その後教育現場における各科目、各領域の指導方法について必要な理論の検討を行う。具体的には教育現場で実践される「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」「小学校外国語活動また、外国語」に焦点を当てて各授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようにする。ただし、小学校の領域については、本学部の免許対象外であるため、実践練習は行わず、教育現場の把握などを行うこととする。</p>	
教育原理	<p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。具体的には以下の通り。1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。2) 子供、教員、家庭、学校等教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。3) 家族と社会による教育の歴史を理解している。4) 近代教育制度の成立と展開を理解している。5) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。6) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。7) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。8) 代表的な教育家の思想を理解している。</p>	
学習心理学	<p>本授業では、学習・教育心理学の基礎とその応用を扱う。学習・教育心理学という学問には、教育に関する事柄のみならず、人間の行動や人間関係全般を理解する上で非常に示唆的な知見が含まれている。まず教育と学習の心理学の基礎を学び、幼児・児童・生徒の個性や学級集団の特徴、教授学習の方法（障害のある幼児・児童・生徒の発達や支援を含む）について理解を深めていく。最終的に、教育を特別な活動としてではなく、日常生活と連続したものとして位置づける観点を持てるように授業を展開する予定である。</p>	
道徳教育の指導法	<p>本授業では、教科や総合学習・特別活動と道徳教育との関係、生徒指導の場における道徳教育、道徳の時間の運営の各領域にわたってわが国の教育実践例を知り、欧米における道徳教育改革の動向をも踏まえて、道徳教育実践の基礎的能力を身につける。また、現代は人格破壊の危機・道徳的危機というべき様相を呈している。このような状況の中で、学校教育の中の道徳教育はどうあるべきかを考察する。戦前・戦後の道徳教育の変遷をたどり、さらにこれまでの道徳教育実践に学び、今、求められる「道徳の授業」とは何かを検討する。また、実際に「道徳の時間」の指導案を書き、模擬授業をすることも視野に入れ講義をすすめる。</p>	
生徒・進路指導論	<p>本授業では、学校教育の全領域における生徒指導（教育相談、進路指導を含む）の原則と指導方法を検討し、学校教育における生徒指導のあり方を探求する。生徒指導について深く理解できるよう、時事的な話題を盛り込みながら、様々な問題と課題および実践的方法を紹介する。</p> <p>講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求め、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。望ましい生徒指導・進路指導のあり方を探るため、双方向型の授業を重視し、グループディスカッションも多く取り入れていく予定である。</p>	
特別支援基礎論	<p>日本では平成19年度まで障害児に対して「特殊教育」という枠組みの中で教育が行われてきた。これを境に障害の対象がさらに広がり、新たに「特別支援教育」という枠組みが採用され、今日ではインクルーシブ教育システムを構築する段階に至っている。現在、少子化が進む中で、義務教育諸学校や高等学校等は縮小化され統廃合が進んでいる。一方、通常学級に在籍する障害（特に発達障害）のある幼児、児童及び生徒だけでなく、特別の支援を要する幼児、児童及び生徒の数は増加しており、加えて特別支援学校や特別支援学級に在籍する障害のある幼児、児童及び生徒の数も大幅に増加している状態である。本授業では、受講生が卒業後教職の場等において、様々な個の教育的ニーズに対応した教育や支援を展開できるための基礎的な内容を学ぶことにある。その際、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援の方法についても理解を深める。</p>	

教育方法・技術論	<p>本授業では、教育方法をめぐる諸問題について歴史的なアプローチと諸外国との比較を交えて考察することで、現代日本の学校教育における教育方法をとらえなおし、自身の教育方法（情報通信技術＝ICTの活用を含む）の知識・技術を向上させる。あわせて、ICTを活用した校務のあり方について検討し、理解を深める。</p> <p>前半の授業は、講義を中心とし、教育方法の歴史と基礎的概念について学ぶ。後半の授業は、グループディスカッションやプレゼンテーションを中心にすすめ、前半の授業での学びを広げ深める。</p>	
教育相談	<p>本授業においては、①カウンセリング理論の学習とワークを通して、教育相談における基本的態度について理解・体得を目指す ②現代の児童・生徒の抱える諸問題（虐待、愛着形成、いじめ、不登校など）や、発達障がい、様々な心の問題についての理解を深め、その対応についても考える力をつける。日本に限らず、どの国、文化、社会においても、他者を受容し、共感的理解を求める相談の知識や技量はコミュニケーションにとって必要不可欠である。</p>	
教育行政・制度論	<p>本授業は次に述べる4部構成を予定している。第1部は、教育行政のしくみと働きについて概説する。教育行政の本質的役割・理念を確認した上で、教育委員会制度（地方教育行政）や文部科学省（中央教育行政）の組織と活動、各種教育法規について学ぶ。第2部は、青年期が抱える課題への対応や、学力保障に向けて、わが国の地方自治体や海外でどのような教育改革が行われているのかを学ぶ。第3部は、組織・制度としての学校に焦点を当てる。今日の社会的要請に応じて、学校や教職員集団がいかなる変化・対応を求められ、どのような課題を抱えているのかについて考察する。最後に、第4部では、これからの教育行政を展望するため、開かれた学校づくりと、格差・貧困問題に取り組むための教育と福祉の連携を取り上げる。</p>	
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	<p>本授業では、「特別活動」「総合的な学習の時間」の意義や原理を学習指導要領の中の位置づけから理解することを目標とする。学習指導要領に示された目標や内容をきちんと理解した後に、具体的な指導計画の立て方、参加、共同、協働、探究活動の方法、課題に対する情報収集、分析、整理の仕方およびまとめ方、体験活動の計画、準備、総括などのさせ方等の指導方法、指導技術を身につけることを目指す。そのために、活動事例や授業実践記録を分析、検討をし、指導案作り、模擬授業等を行う。</p>	
教育課程論	<p>本授業では、学校教育の根幹ともいえるべき教育課程の問題を次の5つの視点から学び、編成方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「だれが学校の教育課程を編成するか」という編成主体のあり方。 ②「何を教育内容として選択し、構成するか」という内容選定の基準と原理の問題。 ③学校の教育活動を全体としてどう構成するかという教育課程の全体構造の問題。 ④学校の教育課程をどのように評価・改善するかという問題。 ⑤学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの今日的意義と重要性。 	
英語科教育法Ⅰ	<p>本授業では、授業者自身の中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の理解・整理・検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようにする。尚、本授業は後期に行う同名科目Ⅱにつながることを想定しており、そこでは理論に基づく実践を多く想定することから、理論から実践へのつながりについても強く意識する授業展開を行う。</p>	
英語科教育法Ⅱ	<p>本授業では、授業者自身の中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について、日本の各種学校における英語授業に応用可能な理論の分析や、理論と実践の関係についての考察・訓練を多く行う。各種理論の理解については、原則として本科目名称のⅠの履修を終えたものを受講対象学生として念頭に置き、授業を展開する。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても多く行い、それらに基づく模擬授業を多く実践し、体験的な学びを多く取り入れることとする。</p>	

英語科教育法Ⅲ	<p>本授業は、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を身につけ、それらを将来教育分野において生かすことを目標とする。2年次に学んだ英語科教育法IおよびIIを更に発展させ、主に高等学校における教育課程編成のあり方を学ぶ。英語科各科目の位置付け、目標等について学び、英語授業を適切に行うための諸理論を学んでいく。学習指導要領と高校教科書を分析し、教科や科目の目標についても学習する。学んだ内容についてペアやグループで話し合い、また「オープニングトーク」という実践を通して、英語教師としての心構えや指導技術を身につけていく。</p>	
英語科教育法Ⅳ	<p>本授業は、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を身につけ、それらを将来教育分野において生かすことを目標とする。英語科教育法Ⅲで学んだ知識を応用し、主に高等学校における教育実習で実際に英語授業を行うために必要な訓練を行う。高校の教科書をもとに適切な学習指導案を作成し、英文法の正しい知識をコミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に教える高校英語授業を構成することができるようになる。また、模擬授業を経験することで教師・生徒それぞれの立場を理解することができる。英語科教育法IIIで学んだ英語教育諸理論を授業実践の中でどのように生かすかを考え、実践することが、本授業の最終的な目標である。</p>	
教職実践演習Ⅰ（中・高）	<p>大学でこれまで学んだ教育学、心理学、教職課程科目の理論と実践、教育実習で身に付けた実践的指導力の結合を図り、現代社会における諸課題を抱えた学校教育の在り方について考察する。教職実践演習の学びから、教員としての資質と能力を自己評価する場として本授業を位置付ける。主として中学校・高等学校における授業者の教育現場での経験を活かし、多様な教育ニーズに応えられるよう受講生を支援する。さらにはコロナ禍を初めとした複雑で新しい教育環境にどのように対応していくか、学生と共に考え、グループワークを中心とした協働学習に重きを置いた授業を展開する。</p>	
教職実践演習Ⅱ（中・高）	<p>この科目では、担当者が高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校、特別支援学校での教育実習と介護等体験などから、教育現場が抱える諸問題や課題を明確にする。授業ではディスカッションや模擬授業などの演習形式で、教育における諸問題を解決するための方法を検討する。受講生は教職課程の個々の科目から修得した専門的な知識・技能と、教員としての使命感や責任感を再確認し、学級担任や教科担任として教科指導、生徒指導等の職務を実践できる資質・能力が自身に身につけているかどうかをふりかえる。また、新学習指導要領を分析し、英語教育におけるICT活用方法実践方法についても考えていく。</p>	
教育実習指導	<p>本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。教育実習を実施するにあたり、これまでに学んだ「英語科教育法」「道徳の指導法」など教育実習生として求められる知識や技術を実際の教育現場において使うことができるように再確認していく。また、実習生に求められる姿勢や具体的な実習記録簿の書き方・教育実習中の心得/規則等についても過去の事例から必要なことをピックアップして説明していく。</p>	
教育実習Ⅰ	<p>教師としての職業観、使命感、職責の重大さを、教育実習を通して学ぶ。本科目の場合は、中学校、または高等学校現場を3週間体験し、教師と生徒、生徒と生徒の心の交流の大切さを理解する。初期は観察を中心とし、中期には参加・授業実習を体験し、最後に授業実習・研究授業の実践を行う。また、教科や課外活動を通じた生徒との心の交流を深める方法を学ぶ。具体的には、教師としての生徒への声かけの方法、生徒の質問への対応のタイミングを学ぶ。さらに、集団の中で生徒一人ひとりに応じた指導の方法を学ぶ。職務遂行上、教職員間の意志の疎通が大切なことを学び、自ら進んで意志の疎通を図ろうとする態度を育成する。</p>	
教育実習Ⅱ	<p>教師としての職業観、使命感、職責の重大さを、2週間の教育実習を通して学ぶ。本科目の場合は原則として、高等学校現場を体験し、教師と生徒、生徒と生徒の心の交流の大切さを理解する。初期は観察を中心とし、中期には参加・部分実習を体験し、最後に研究授業の実践を行う。また、教科や課外活動を通じた生徒との心の交流を深める方法を学ぶ。具体的には、教師としての生徒への声かけの方法、生徒の質問への対応のタイミングを学ぶ。さらに、集団の中で生徒一人ひとりに応じた指導の方法を学ぶ。職務遂行上、教職員間の意志の疎通が大切なことを学び、自ら進んで意志の疎通を図ろうとする態度を育成する。</p>	